スズキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

車は取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。正しい取扱いをご理解いただくため運転する前に、必ず取扱説明書をお読みください。そして安全で快適なバイクライフをお楽しみください。またメンテナンスノートもぜひお読みください。

- この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検、整備の方法などについて説明してあります。
- **「必読!安全運転のために」**および次のシンボルマークで示したところは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠警 告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性がある危害の程度を示しています。
⚠注 意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある危害の程度を示しています。
注 記	取扱いを誤った場合、物的損害の発生する危害の程度を示しています。
アドバイス	お車のために守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを示しています。

お車受け取りの際は、お買いあげいただいたスズキ販売店より取扱説明書、メンテナンスノートを受け取り、下記の説明を受けてください。

◇ お車の正しい取扱い方法
◇ 日常点検、定期点検
◇ 保証内容と保証期間
◇ 保証書の発行《保証書登録票の記入・捺印》

- お車を譲られるときは、次に所有される方のためにこの取扱説明書とメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更などにより、この取扱説明書の内容とお車が一致しない場合があります。ご了承ください。

☆ この車は、平成28年排出ガス規制適合車です。

もくじ

必読！安全運転のために	運転の前に……2	運転中は……9	車の整備など……14
取扱いの方法	各部の名称……18 メータの見かた……21 スイッチの使いかた……40 ハンドルロック……50	シート……51 ヘルメットホルダ……55 ラゲッジストラップ……57 書類入れ、サービス工具……58	ガソリンの給油……60 ブレーキレバー……64 チェンジペダル……65 リヤショックアブソーバ……66
正しい運転操作	エンジンのかけかた……68	走りかた……75	ブレーキの使いかた……79
お車の点検	日常点検、定期点検……82	日常点検項目……84	
簡単な整備	簡単な整備……88 スロットルケーブル……89 ブレーキ……91 クラッチ……97	エンジンオイル……100 カウル……105 冷却水……111 エアクリーナ……115	ドライブチェーン……117 ヒューズ……121 バッテリ……126 タイヤ……129
お車の手入れ	洗車……134 プラスチック製部品……136 つや消し塗装……137	アルミホイール……138 エキゾーストパイプ……139 スロットルケーブルブーツ……140	スロットルストップスクリュ..141 保管のしかた……142 環境を保護するために……143
サービスデータ	主要諸元……146	サービスデータ……148	車台番号……149

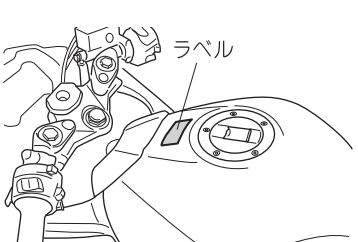
必読！安全運転のために

運転の前に

この章にあげた、日常走行する上での基本的な注意事項を守り、安全運転を心がけてください。

車の購入当初は、誰でも細心の注意をはらって運転しますが、なれるに従い注意を怠ってしまいます。事故防止のため、いつも細心の注意をはらって運転しましょう。

重要な事項を書いたラベルが車に貼られています。これらの注意をいつもお守りください。

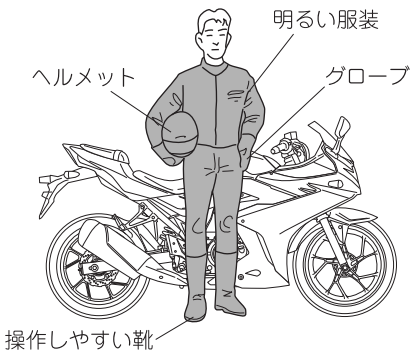


◇転倒などの際のけがを最小とするため、ヘルメットや手袋などの保護具を正しく着用してください。

◇取扱説明書をよくお読みください。

■ 安全な運転は正しい服装から

- ヘルメットを必ず着用してください。
  頭にしっくり合ったPSC、SGまたはJISマークのある二輪車用ヘルメットをかぶり、あごひもをしっかり締めましょう。
- 保護具や保護性の高い服装を着用してください。
- ヘルメットシールドまたはゴーグルを使用してください。
- グローブを着用してください。グローブは摩擦に強い皮製が適しています。
- 服装は明るく目立ち、体の露出の少ない長袖、長ズボンを着用してください。万一のとき身体への衝撃を軽減します。
- 運転を阻害するような服装はやめましょう。そで口の広い服や、すそ広のズボンなどは運転操作の邪魔になります。
- 運転操作のしやすいくるぶしまで覆う靴をはいてください。



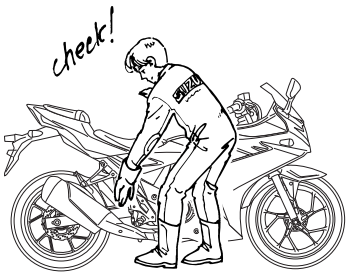
⚠警 告

- **ヘルメットを正しくかぶってください。正しくかぶらないと事故の際、死亡または重大な傷害を負う可能性が高くなります。**
- **運転者と同乗者は、必ずヘルメット、保護具および保護性の高い服を着用してください。**

うしろの席に乗る人は、背丈の長いジャケットやコートを着用しないでください。テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されて、後続の車に見落とされるおそれがあります。
やむを得ず着用する場合は、ジャケットやコートのすそをお尻の下に敷くなどして、テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されないようにしてください。

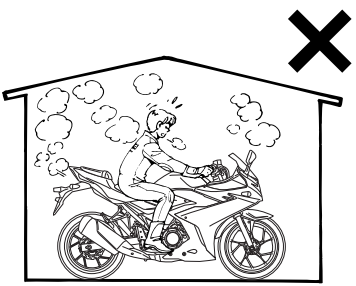
■ 点検整備をしましょう

事故や故障を未然に防ぐため、日常点検と定期点検を必ず実施してください。
いつもと違う音やにおいがしたり、液漏れした場合などは、スズキ販売店で点検を受けてください。



■ エンジンをかけるときは

風通しのよい場所でエンジンをかけてください。

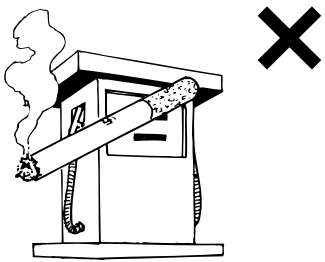


⚠警 告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

■ 給油するときは

ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。

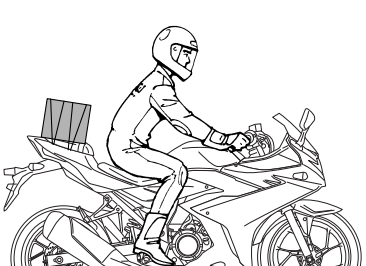


■ 乗車定員は2名

二人乗りでは通行できない道路区分もあります。また、二人乗りは年令や経験年数の制限もあります。二人乗りに関する条件や交通規制をしっかり守り、マナーのよい運転を心がけましょう。

■ 荷物

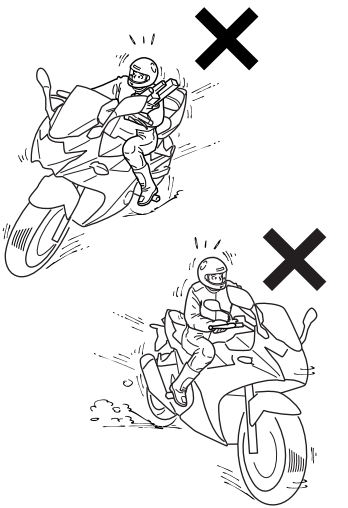
- 荷物を積むと、積まないときにくらべ操縦性・安定性が変わります。
- 荷物はゴムバンドなどでしっかり固定し、積み過ぎないようにしてください。



運転中は

■ 乗りかた

- 運転中は両手でハンドルを握り、足をフットレストに置いてください。同乗者には両手で身体をしっかり固定させ、足は後席用フットレストに乗せさせてください。
- 急激なハンドル操作や片手運転は絶対にしないでください。横すべりや転倒の原因となります。



■ 風が強い日は

横風が強いとき、トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックに追い越されたり追い越したりするときは、横風を受けて車が流されることがあります。
スピードを抑え、ハンドルをしっかり握って運転しましょう。

■ 雨の日、雪の日は

- 路面がすべりやすいので急加速、急減速、急ブレーキは避けてください。
- ふだんよりスピードをおとして、早めにブレーキをかけてください。

■ 冠水した場合は走行しない

万一、冠水した場所を走行したときは、ブレーキの効きを確かめながら安全な場所に停車し、スズキ販売店にご連絡ください。また、次の項目などについて点検を受けてください。

- ブレーキの効き具合
- コネクタ、配線への浸水
- ベアリングなどの潤滑不良
- オイル量および質の変化(オイルが白濁している場合は、水が混入していますので、オイル交換が必要です。)

注 記

冠水した場所や深い水たまりを走行しないでください。エンスト、電装品の故障、エンジンの破損などの原因となります

■ 駐車するとき

車から離れるときは、盗難抑止のため必ずハンドルをロックし、キーは抜いてお持ちください。

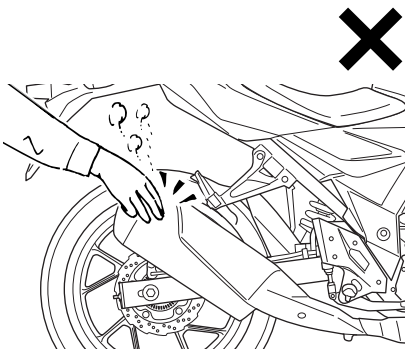
☞50ページの「ハンドルロック」参照

- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 違法駐車はしないでください。
- 車は平坦でしっかりした地面の場所に、ハンドルを左にきって駐車してください。ハンドルを右にきった状態での駐車は避けてください。
- やむをえず傾斜地、砂利の上、でこぼこな所、やわらかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、車が転倒したり、動いたりしないように十分注意してください。

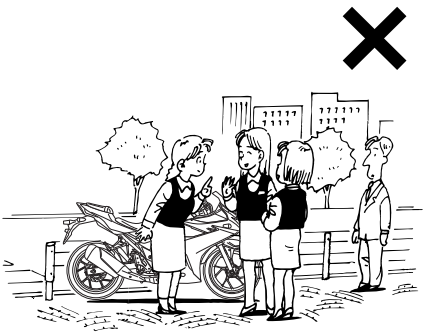
⚠注 意

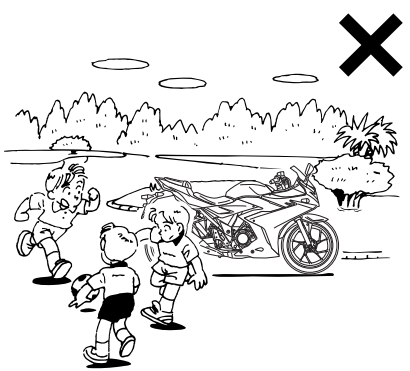
- **エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。**
- **マフラに内蔵されている触媒装置は高温になります。車の周りに枯れ草、木材、紙、油脂類などの燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。火災の原因となるおそれがあります。**

● エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどに触れないでください。



● 他の人がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。





■ 車を押して移動するとき

車を押して移動するときは、メインスイッチをOFFにしてください。

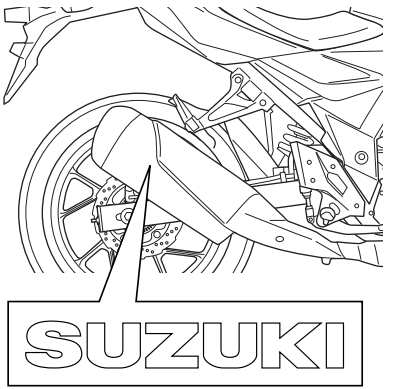
車の整備など

■ 不正改造はやめましょう

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪くしたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。このような改造は法律に触れるばかりでなく、他の人の迷惑となります。

車の改造は保証の適用を除外されますのでご了承ください。

● マフラには、スズキ純正部品を表す“SUZUKI”マークが刻印されています。



● 自己流のエンジン調整、部品の取り外しは行わないでください。エンジン調整はスズキ販売店にご相談ください。
● あなたのお車に適したスズキ純正部品および指定・推奨油脂類をお使いいただくことをおすすめします。純正部品は厳しく検査し、スズキ車に適するように作られています。純正部品には下記の表示があります。

- この車は、排出ガス規制適合車です。
  マフラには排気ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。
  マフラを変更すると、排出ガス規制に適合しなくなるおそれがありますので、マフラを交換する場合はスズキ販売店にご相談ください。

■ 触媒装置について

この車のマフラには、触媒装置が内蔵されています。この触媒装置の働きによって排出ガスの有害物質の排出量を低減します。特別な点検および整備は必要ありませんが、不適切な運転や誤った取扱いをすると触媒装置が異常な高温になり、触媒装置および他の関連部品が損傷するおそれがありますのでご注意ください。

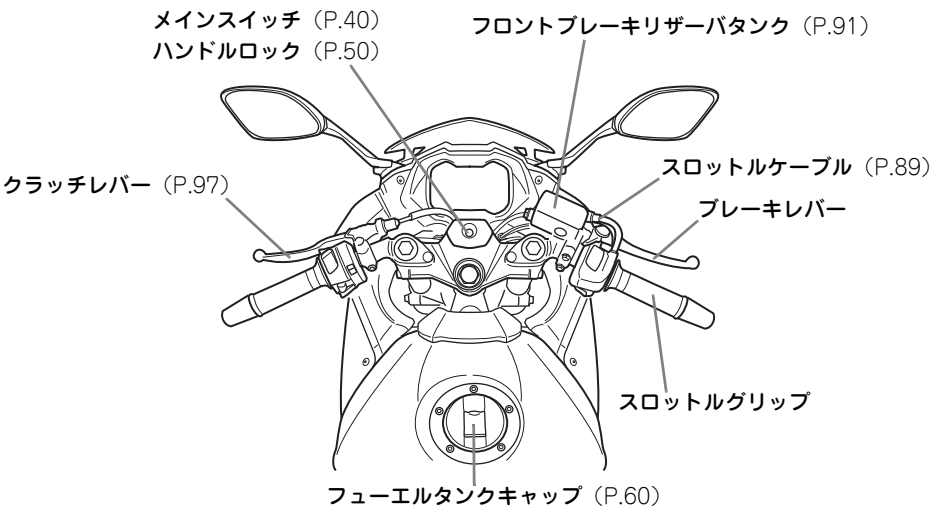
注 記

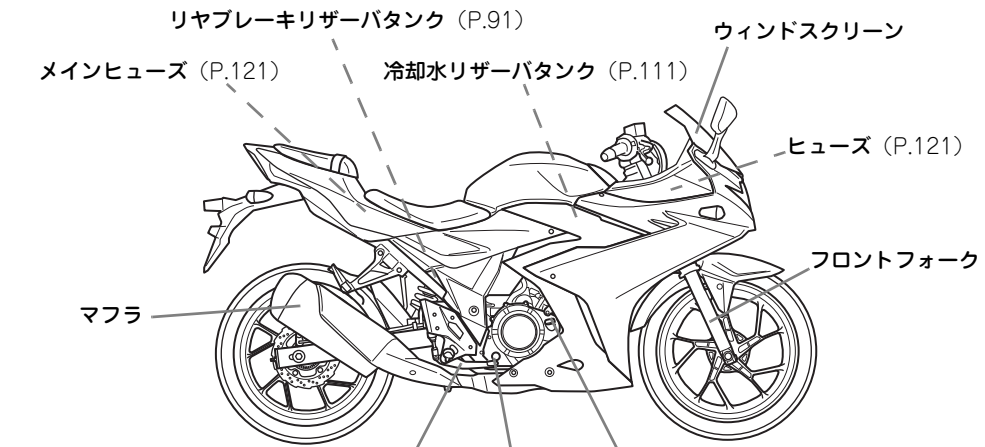
触媒装置および他の関連部品の損傷を避けるために、下記の注意事項をお守りください。

- 必ず無鉛ガソリンを使用してください。
- エンジンの性能の低下や不調を感じたときは、スズキ販売店で点検を受けてください。
- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチを操作して、エンジンを停止しないでください。
- 押しがけや下り坂を利用してのエンジンの始動を行わないでください。
- 診断テスト中などで、スパークプラグワイヤを取り外した状態でエンジンを始動しないでください。
- 不要な空ふかしや長時間のアイドリングは行わないでください。
- フューエルタンク内のガソリンを使い切ること（ガス欠）のないようにしてください。

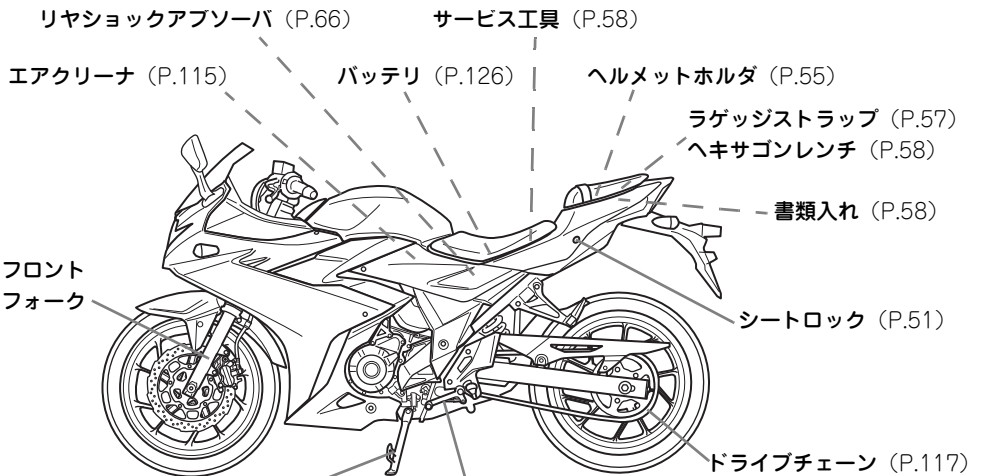
取扱いの方法

各部の名称

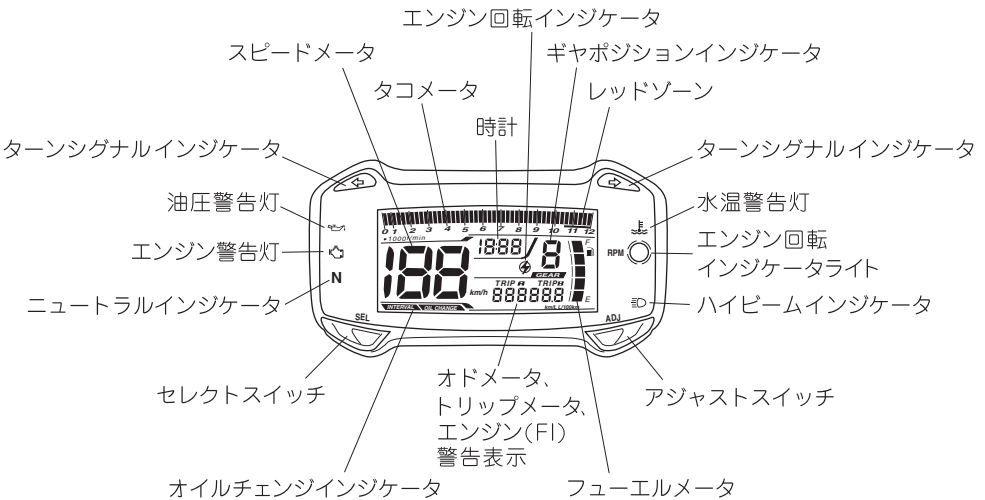




－－－部は見えない部分を示します。

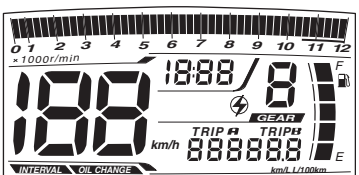

リヤショックアブソーバ（P.66）
サービス工具（P.58）
エアクリーナ（P.115）
バッテリ（P.126）
ヘルメットホルダ（P.55）
ラゲッジストラップ（P.57）
ヘキサゴンレンチ（P.58）
書類入れ（P.58）
フロント
フォーク
シートロック（P.51）
ドライブチェーン（P.117）
サイドスタンド
チェンジペダル
———部は見えない部分を示します。

メータの見かた


エンジン回転インジケータ
スピードメータ
ギヤポジションインジケータ
タコメータ
レッドゾーン
時計
ターンシグナルインジケータ
ターンシグナルインジケータ
油圧警告灯
水温警告灯
エンジン警告灯
エンジン回転
インジケータライト
ニュートラルインジケータ
ハイビームインジケータ
セレクトスイッチ
オドメータ、
トリップメータ、
エンジン(FI)
警告表示
アジャストスイッチ
オイルチェンジインジケータ
フューエルメータ

メインスイッチを**ON**にすると

- エンジン警告灯、水温警告灯、エンジン回転インジケータライトが3秒間点灯します。
- 油圧警告灯が点灯します。
- 全液晶ディスプレイセグメント表示(チェックパターン表示)を行います。



▲警 告

走行中にスイッチ操作を行なうと危険です。必ず停止中に操作してください。

■ スピードメータ

車の走行速度をkm/hの単位で示します。

■ タコメータ

エンジンの回転速度を示します。

アドバイス

- **エンジンの回転速度がレッドゾーンに入らないよう注意して走行してください。**
- **空ふかしや、1 速 /2 速での急加速はレッドゾーンに入りやすいので、特に注意してください。**
- **レッドゾーンに入ってしまった場合は、速やかにスロットルをゆるめ、エンジン回転速度を下げてください。**

＜レッドゾーン＞

レッドゾーンとは、エンジンの許容回転速度を超えた回転域を示します。レッドゾーン内で使用すると、エンジンが円滑に回転しなくなり、エンジン寿命に悪影響を与えます。

■ エンジン回転インジケータライト

エンジン回転速度が設定値に達すると、エンジン回転インジケータライトが点灯または点滅し、シフトアップのタイミングをお知らせします。

エンジン回転インジケータライトの点灯設定、点灯タイミング（エンジン回転数）設定は、エンジン回転インジケータライトの設定モードで変更することができます。メータ表示を設定モードに切り替えるには、メインスイッチを**ON**にし、表示が切り替わるまでセレクトスイッチを2秒以上押し続けます。設定モードに切り替わると、オドメータ/トリップメータの表示が消えます。

点灯設定（点灯／点滅／消灯）

アジャストスイッチを押してエンジン回転インジケータライトの点灯設定を変更します。点灯設定は、アジャストスイッチを押す毎に、点灯→点滅→消灯→点灯と変化します。エンジン回転インジケータライトが点灯または点滅に設定されている場合は、液晶ディスプレイ内のエンジン回転インジケータ“ ”が表示されます。セレクトスイッチを押すと、選択が確定します。点灯設定を点灯または点滅に設定した場合、続けて点灯タイミング（エンジン回転数）の設定を行います。

アドバイス

エンジン回転インジケータライトを点灯、点滅させたくない場合は、エンジン回転インジケータライトの点灯設定で消灯に設定してください。

点灯タイミング（エンジン回転数）設定

点灯設定後、点灯タイミング（エンジン回転数）設定に切り替わります。現在、設定されているエンジン回転数をタコメータのセグメントが示します。

アジャストスイッチを押して、タコメータのセグメントを点灯または点滅を開始させたい回転数に設定します。セグメントは、アジャストスイッチを押すごとに4000r/min ～ 10500r/min の間で500r/min刻みで変化します。セグメントをお好みの回転数に合わせ、セレクトスイッチを押すと設定が記憶され、通常表示に戻ります。

アドバイス

- **エンジン回転インジケータシステムは、メインスイッチをOFFにしても設定を記録しています。**
- **エンジン回転インジケータライトの設定モード中に、メインスイッチをOFFにしたり、車両速度が10km/h以上になると設定モードを解除し、通常のメータ表示に戻ります。この場合、設定途中のものは記憶されていません。**

■ オドメータ、トリップメータ、平均燃費計

メインスイッチを**ON**にするとチェックパターンを表示後、オドメータ、トリップメータ AまたはB、平均燃費計 AまたはBを表示します。

- セレクトスイッチを押すと右図のように切り替わります。
- メインスイッチを **OFF** にしても設定は記憶されます。

<オドメータ>

- 走行した総距離をkmの単位で示します。
- オイル交換や定期点検の目安となります。
- オドメータの表示範囲は、0～999999です。999999を超えると、オドメータは999999を表示し続けます。

<トリップメータ>

- リセット後の走行距離がkmの単位で表示されます。
- **TRIP A, B** 2つのモードがあります。
  表示範囲は0.0～9999.9です。9999.9を超えると0.0に戻ります。
- アジャストスイッチを約　2　秒間押すとリセットされ、“0.0”を表示します。リセットされるのは表示している**TRIP A**または**B**だけで、表示していない方はそのままです。

＜平均燃費計＞

- 燃費表示には、1Lあたりの走行距離を示す“km/L”と100km走行するのに必要な燃料を示す“L/100km”があり、アジャストスイッチを2秒以上押すと切り替わります。
- **TRIP A, B** 各々の走行距離に対する燃費を表示します。平均燃費計をリセットするには、トリップメータをリセットしてください。一定距離を走行するまで平均燃費計は“－－.－”を表示します。
- “km/L”の表示範囲は0.1～99.9で、これ以外のときは表示しません。
- “L/100km”の表示範囲は2.0～99.9で、これ以外のときは表示しません。

アドバイス

燃費計は、おおよその値を示したものです。実際の値とは異なります。

■ 時計

時分を表示します。（12時間表示）

＜時計の調整＞

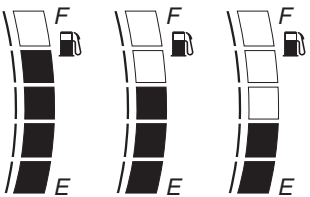
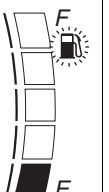
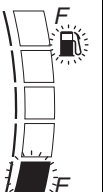
1. メインスイッチを**ON**にします。
2. セレクトスイッチとアジャストスイッチを同時に約2秒間押すと時計表示が点滅します。
3. セレクトスイッチを押し、時表示を調整します。
4. アジャストスイッチを押し、分表示を調整します。
5. セレクトスイッチとアジャストスイッチを同時に約2秒間押すと調整が終了します。

アドバイス

メインスイッチOFFでも、メータには微少電流が流れ、電力を消費しています。長期間（2か月以上）乗らない場合は、バッテリを外してください。詳細はP.142のアドバイスをご覧ください。

■ フューエルメータ

フューエルタンクのガソリン残量の目安を表示します。

表示	マーク点灯				マーク点滅	
						
ガソリン残量	満タン	・・・・・・・・・・・・			約4.2L	約1.8L

■点灯　□消灯　 点滅を表す

注 記

フューエルタンク内のガソリンを使い切る（ガス欠）と触媒装置などの損傷の原因になります。ガソリンの残量に注意してください。

アドバイス

- **マークが点滅したら、すみやかにガソリンを給油してください。**
- **サイドスタンド状態では、フューエルメータはガソリンの量を正しく表示できません。車体を垂直にした状態で確認してください。**

■ 油圧警告灯

- メインスイッチを**ON**にすると点灯し、エンジンが始動すると消灯します。
- 潤滑系統の油圧が低下すると、油圧警告灯が点灯します。

注 記

- **油圧警告灯が点灯したまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。**
- **油圧警告灯が点灯したらエンジンをとめ、オイル量を点検してください。**
- **オイル量が正常でも油圧警告灯が点灯する場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。**

■ 水温警告灯

冷却水の温度が規定値を超えると水温警告灯が点灯します。

注 記

- **水温警告灯が点灯したまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。**
- **水温警告灯が点灯したら、エンジンをとめ、エンジンが冷えてからリザーバタンク内の冷却水量を点検してください。**
- **高温下での長時間にわたるアイドリングにより、水温警告灯が点灯する場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、冷えるまでエンジンを停止してください。**

■ エンジン警告灯

メインスイッチを**ON**にするとランプチェックのため約3秒間点灯します。

- 燃料噴射機構に異常が起きると点灯または点滅します。
- バッテリ性能が低下すると早い点滅（3回1セット）を繰り返し、点検を促します。

注 記

エンジン警告灯が点灯または点滅したら、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

- **エンジン警告灯が点滅している場合は、始動ができません。**
- **エンジン警告灯が点灯していても走行できない場合もあります。**

<エンジン(FI)警告表示>

燃料噴射機構に異常が起きると、オドメータディスプレイ内に**FI**と表示します。同時にエンジン警告灯が点灯または点滅します。

注 記

エンジン(FI)警告表示が出たら、すぐにスズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

- ディスプレイ内に FI と点灯表示されエンジン警告灯が点滅している場合は、始動ができません。
- エンジン(FI)警告表示が点滅していて走行できない場合もあります。
- 次の表示が出た場合は、エンジンが始動できません。

CHEC

以下の点検を行ってください。

- エンジンストップスイッチが になっていないか
- チェンジがニュートラル以外でサイドスタンドが出ていないか
- ヒューズが切れていないか
- ワイヤハーネスに異常がないか

CHEC表示が消えないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

■ ターンシグナルインジケータ ⇦⇨

ターンシグナルランプが作動すると点滅します。

■ ハイビームインジケータ ≣D

ヘッドランプが上向きのときに点灯します。

■ ニュートラルインジケータ N

変速ギヤがニュートラル（チェンジが入っていない）のときに点灯します。

■ ギヤポジションインジケータ

ギヤポジションを表示します。ニュートラル（チェンジが入っていない）のときは“0”を表示します。

■ オイルチェンジインジケータ

エンジンオイルの交換時期をお知らせします。初回は　1,000km　で表示、リセット後は5,000kmごとに表示します。初回の1,000kmを過ぎると、6,000 ↔ 500kmの範囲で任意に設定することができます。

リセットのしかた

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. セレクトスイッチを押したままメインスイッチを **ON** にし約 3 秒間待ちます。 **OIL CHANGE** が、3回点滅して消え、リセットされます。このときのオドメータの数値が記憶され、5,000km（または設定値）走行後に再び表示します。

アドバイス

- **OIL CHANGE** が点灯したらオイルを交換し、リセットしてください。これにより次回オイル交換時期を表示することができます。
- 点灯前にオイル交換した場合にも次回のオイル交換時期を正しく表示させるためリセットしてください。ただし初回1,000km未満でのリセットはできません。

オイル交換時期の設定

1. メインスイッチを ON にし、メータをオドメータ表示とします。アジャストスイッチを約2秒以上押して **INTERVAL** と **OIL CHANGE** を点滅させます。このときオドメータは、前回リセット時のオドメータの数字を3回点滅表示したあと、現在のインターバル設定値を点灯表示します。

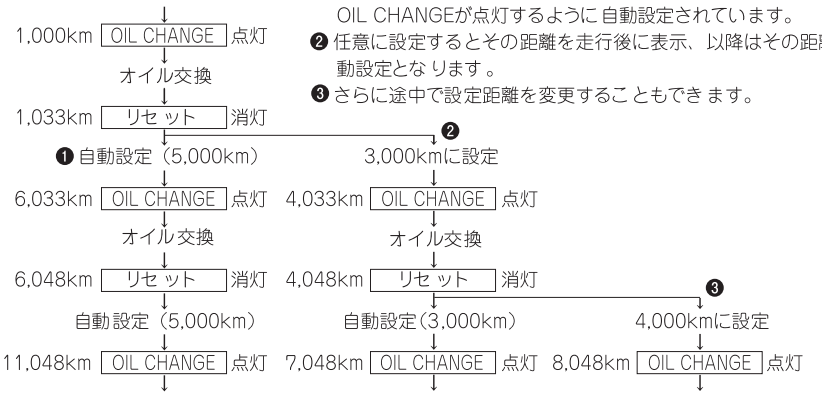
2. セレクトスイッチを押すと500kmずつダウンし、アジャストスイッチを押すと500kmずつアップします。
   500⇆1,000⇆　・・・　5,500⇆6,000
3. 再びセレクトスイッチとアジャストスイッチを約2秒以上押して設定完了です。オドメータが表示されます。

アドバイス

- 距離設定は、オドメータが1,000kmに達したあとに調整可能となります。
- メンテナンスはオイル交換時期の目安を示すものです。メンテナンスノートに従って正しい時期にオイル交換をしてください。
- オイル交換のインターバルは、交換時期の設定をしてからではなく、リセットしてからの距離を示します。

アドバイス

オイル交換時期 設定例

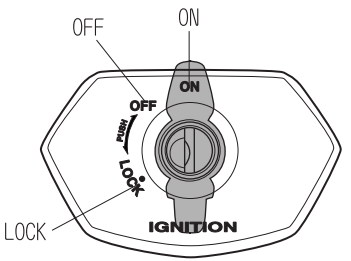


❶ 特に設定しない場合は、初回 1,000kmのあとは5,000km走 行後にOIL CHANGEが点灯するように 自動設定されています。
❷ 任意に設定するとその距離を走行後に表示、以降はその距離が自動設定とな ります 。
❸ さらに途中で設定距離を変更することもでき ます。

スイッチの使いかた

■ メインスイッチ

電気回路のON-OFFをキーを回して行います。



ON

- エンジンの始動・走行ができます。
- 次のランプが点灯します。
  [ヘッド、テール、メータ、ポジション、ライセンスランプ]
- スイッチ、ランプ類が使えます。
  [ターンシグナル、ホーン、ハザード、スタータ、パッシング、ディマ]
- キーが抜けません。

OFF

- エンジンが停止します。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

LOCK

- ハンドルがロックします。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

⚠警 告

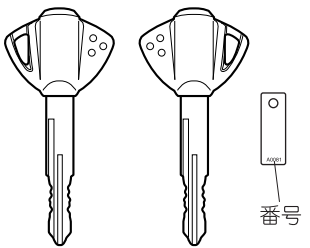
- **走行中はキーを操作しないでください。思わぬ事故につながることがあります。キーは停車後、操作してください。**
- **衝突やスリップにより転倒した場合は、車両に想定できない異常が発生する可能性があります。車両の異常により火災が発生したり、リアホイールなどの回転する部品に巻き込まれる可能性があります。**
  転倒した場合は、すぐにメインスイッチをオフにして、すべての装置を停止させます。転倒したときに、見えない部分に損傷を受けている可能性があるので、スズキ販売店で点検を受けてください。

アドバイス

- メインスイッチ ON でヘッドランプなどが点灯するため、エンジンをかけずにONのままにしておくとバッテリあがりの原因となります。
- 車から離れるときは、盗難抑止のためハンドルをロックし、必ずキーを抜いてお持ちください。
- キーはメインスイッチ、フューエルタンクキャップなどに共通して使います。

＜キーの取扱い＞

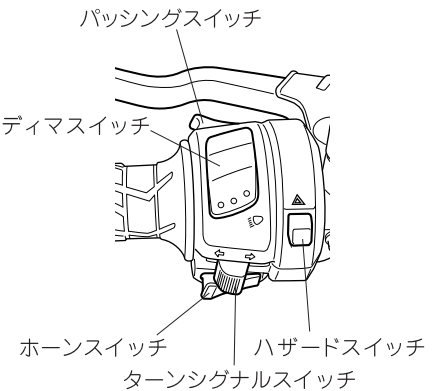
この車にはキーが2個と英数字のキー番号を印したプレートがセットされています。



アドバイス

スペアキーは大切に保管してください。

それぞれのスイッチはメインスイッチがONのとき作動します。



■ ターンシグナルスイッチ

右折または左折するときや進路変更などの合図に使います。

右折 ⇨

スイッチを⇨側にすると、右側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

左折 ⇦

スイッチを⇦側にすると、左側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

▲警 告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除されません。使用後は、必ずスイッチを前に押して解除してください。点滅したままにしておくと周囲の誤判断を招き、事故を起こすおそれがあります。

アドバイス

ターンシグナルランプの電球（バルブ）に、正規ワット数以外のものを使用するとターンシグナルが正しく作動しません。必ず正規ワット数のものを使用してください。

■ ディマスイッチ

ヘッドランプの向きを切り替えます。

ハイビーム

スイッチを側に押すと、ヘッドランプが上向きになります。

ロービーム

スイッチを側に押すと、ヘッドランプが下向きになります。

注 記

停車中に、点灯したヘッドランプやテールランプを物でさえぎったり、衣類などを被せないでください。ランプの熱により、レンズが溶けたり、置いた物が損傷することがあります。

注 記

- **ディマスイッチをハイビームとロービームの中間位置に止めると、ハイビームとロービームの両方が点灯することがあります。このような状態で走行すると、車両に損傷を与えるおそれがあります。**
- **ヘッドランプにはテープ類を貼らないでください。**

アドバイス

対向車や先行車があるときはロービームで走行してください。

■ パッシングスイッチ

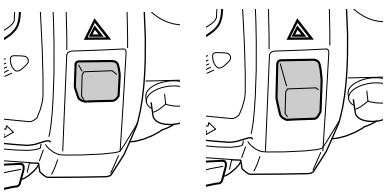
追い越しのときなどに、自車の存在を知らせます。スイッチを押すとハイビームが点灯します。ハイビーム点灯中は作動しません。

■ ホーンスイッチ

スイッチを押すとホーン（警音器）が鳴ります。

■ ハザードスイッチ

故障などの非常時に、停車するとき使用します。スイッチを⚠側に押すと、すべてのターンシグナルランプが点滅します。

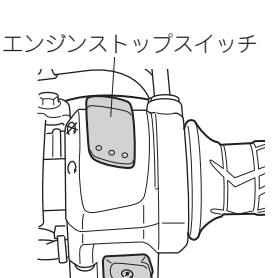


点滅　　消灯

アドバイス

非常時以外は、使用しないでください。エンジン停止状態での使用は、バッテリあがりの原因となります。

それぞれのスイッチはメインスイッチがONのとき作動します。



■ スタータスイッチ

エンジンストップスイッチが↺になっていることを確認します。スタータスイッチを押すとスタータモータが回転し、エンジンが始動します。

- ギヤポジションがニュートラルの場合は、クラッチレバーを握らなくてもエンジンを始動することができます。
- ギヤポジションがニュートラルではない場合は、クラッチレバーを握ることでエンジンを始動することができます。

サイドスタンドとギヤの位置によりエンジンが始動しない場合があります。詳細は P.70<サイドスタンドインタロック>をご覧ください。

注 記

エンジンを始動する前に、ギヤポジションインジケータとニュートラルインジケータの状態を確認してください。以下の状態でない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

- ギヤポジションインジケータが “0” の表示をしているとき、ニュートラルインジケータが点灯していること。
- ギヤポジションインジケータが（1、2、3、4、5、6)いずれかの表示をしているとき、ニュートラルインジケータが消灯していること。

アドバイス

- スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリあがりの原因となります。
- エンジンストップスイッチが のときは作動しません。

■ エンジンストップスイッチ

転倒などの非常時に、ただちにエンジンを停止させます。
スイッチを 側に押すとエンジンが停止します。通常は にしておきます。

▲警 告

走行中にエンジンストップスイッチを→→にしないでください。エンジンが円滑に回転しなくなり、走行不安定の原因となります。またエンジンや触媒装置に悪影響を与えます。

アドバイス

エンジンストップスイッチでエンジンを停止したときは、必ずメインスイッチをOFFにしてください。ONのままにしておくとバッテリあがりの原因となります。

ハンドルロック

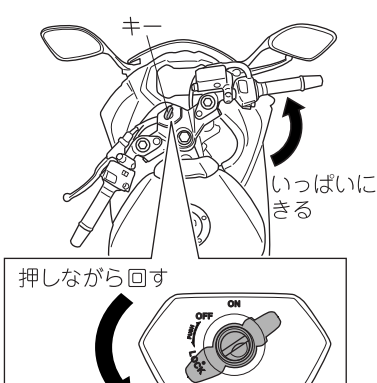
車から離れるときは、盗難抑止のためにハンドルロックをかけましょう。
チェーンロックなどの併用もおすすめします。

＜かけかた＞

1. ハンドルを左へいっぱいにきります。
2. キーを押しながら **OFF** から **LOCK** まで回します。
3. キーを抜きます。

アドバイス

- **ハンドルを左右に動かして、確実にロックされているか確認してください。**
- **ロックがかかりにくいときは、ハンドルを少し右に動かしながらキーを回してください。**



ハンドルロックのかけかた

＜外しかた＞

キーを差し込み、押しながら**OFF**まで回します。

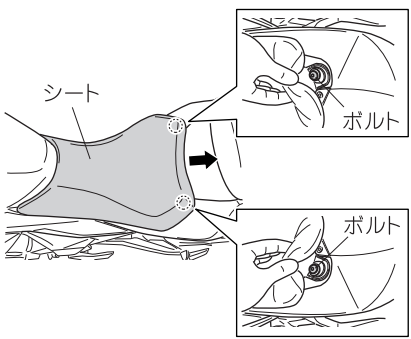
アドバイス

走行前にハンドルを左右に動かして、切れ角が左右均等かを確認してください。

シート

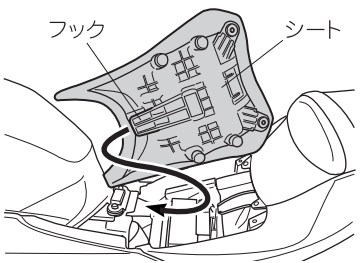
＜フロントシートの取り外し＞

1. リヤシート裏側のヘキサゴンレンチを使い、シート後部のボルト（左右）を取り外します。
2. シートの後部を持ち上げ、後方に引いて外します。



＜フロントシートの取り付け＞

1. シート裏側のフックを車体側に差し込みます。
2. シート後部のボルト（左右）を取り付けます。

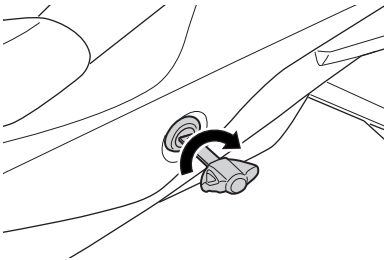


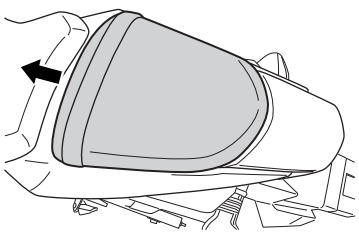
アドバイス

シートを軽く持ち上げ、確実に取り付けられているか確認してください。

＜リヤシートの取り外し＞

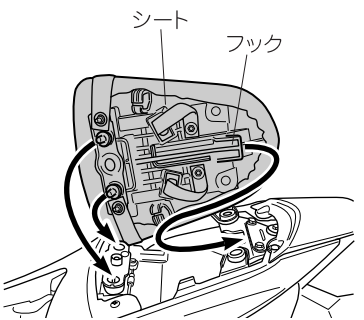
1. シートロックにキーを差し込み、右に回してロックを解除します。
2. シートの前部を持ち上げ、前方に引いて外します。





＜リヤシートの取り付け＞

1. シート裏側のフックを車体側に差し込みます。
2. シートの前部を押し下げ、ロックします。



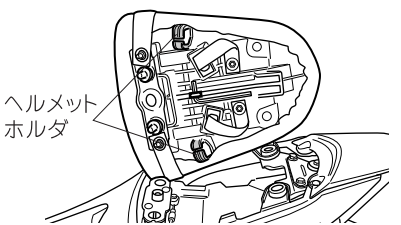
アドバイス

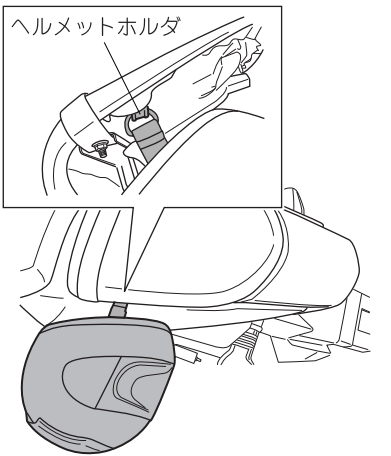
- シートを軽く持ち上げ、ロックがかかったことを確認してください。
- シート下にキーを置いたままロックすると、キーが取り出せなくなりますので注意してください。

ヘルメットホルダ

ヘルメットの盗難抑止のため、ヘルメットホルダを使いましょう。

1. リヤシートを外します。
2. ヘルメットホルダにヘルメットの金具をかけます。
3. リヤシートを取り付けます。





⚠警 告

ヘルメットホルダにヘルメットをつけたまま走行しないでください。運転の妨げになります。またヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

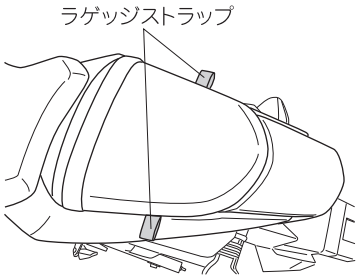
アドバイス

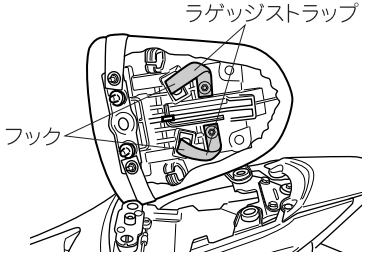
ヘルメットによっては、ヘルメットの形状やあごひもの長さにより、ヘルメットホルダに取り付けできないことがあります。

ラゲッジストラップ

荷物を固定する際には、ラゲッジストラップを使用します。

1. リヤシートの裏側にあるラゲッジストラップをフックから外します。
2. 左右のラゲッジストラップを外側に出し、リヤシートをロックします。
3. ゴムバンド等で荷物をリヤシートの上に固定します。



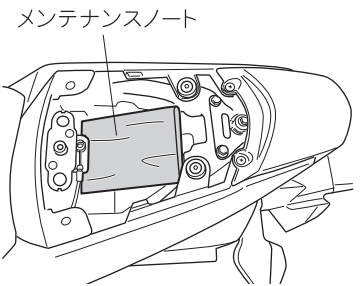


書類入れ、サービス工具

<書類入れ>

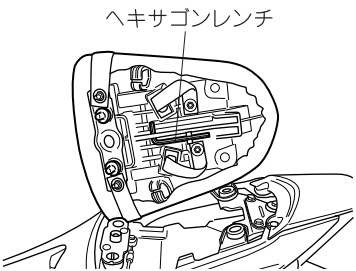
リヤシートを外すと書類入れがあります。

- メンテナンスノートは、ビニール袋に入れてここに保管してください。



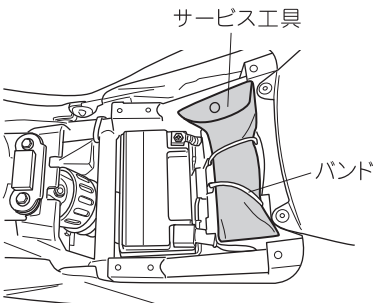
<サービス工具>

リヤシート裏側にヘキサゴンレンチがあります。



フロントシートを外すとサービス工具があります。

- サービス工具は、袋に入れてからバンドで固定してください。

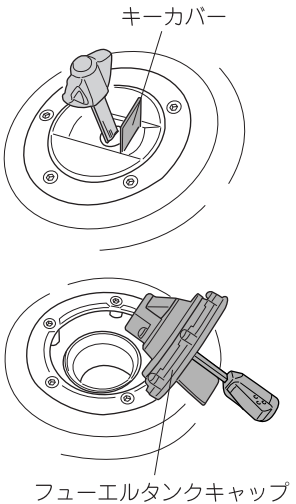


アドバイス

洗車時などに水が入る場合があります。大切なものを入れる場合はご注意ください。

ガソリンの給油

1. フューエルタンクキャップのキーカバーを開けます。
2. キーを差し込み、右に回してロックを解除します。
3. フューエルタンクキャップを開けます。



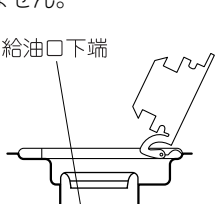
4. ガソリンを給油します。キャップからガソリンがにじみ出ることがあるため、給油口の下端以上入れないでください。

指定燃料：無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：15L

アドバイス

ノッキング音の発生が気になる場合は、無鉛プレミアムガソリンの使用をおすすめします。

5. キャップを押し下げ、キーを左に回して抜きます。キャップがロックされないとキーは抜けません。



⚠警 告

ガソリンは引火性が高く取扱いを誤ると火災を起こすおそれがあります。

- ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- フューエルタンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。静電気を帯びていると、放電の火花でガソリンに引火するおそれがあります。
- 給油操作は、一人で行い他の人を近づけないでください。
- 給油後、フューエルタンクキャップをカチッと音がするまで確実に閉めてください。
- こぼれたガソリンは、布などで完全にふき取ってください。

注 記

- 必ず無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他アルコール系の燃料、軽油など、また不適切な添加剤は、エンジン、触媒装置、燃料系統を損傷する原因となります。
- 給油時など、フューエルタンクに砂ぼこりや水などの異物が混入しないように注意してください。フューエルポンプの詰まりの原因となるおそれがあります。
- フューエルタンク内のガソリンを使い切る(ガス欠)と触媒装置などの損傷の原因になります。ガソリンの残量に注意してください。

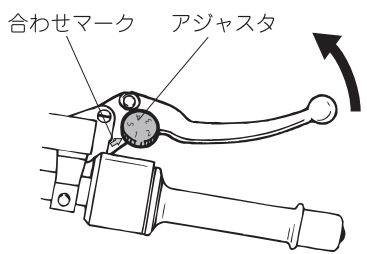
アドバイス

加速不良やエンジン出力が出ないなどのエンジンの不調が起きるときは、使用しているガソリンが原因の場合があります。そのときは、給油するガソリンスタンドを変えてみてください。ガソリンスタンドを変えても症状が改善しないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

ブレーキレバー

ブレーキレバーとグリップとの間隔が調整できます。

- ブレーキレバーを前方に押し、アジャスタを回します。
- アジャスタの数字を「合わせマーク」にしっかりと合わせます。



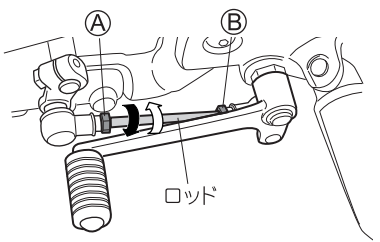
⚠警 告

走行中は調整を行わないでください。思わぬ事故につながることがあります。調整は必ず停車中に行ってください。

チェンジペダル

チェンジペダルの位置が調整できます。

- ロックナットⒶ、Ⓑを手前（⬇）に回してゆるめ、ロッドを回します。
- ロッドを手前（⬇）に回すとペダル位置が低く、反対（⇧）に回すと高くなります。
- 調整後は、ロックナットⒶ、Ⓑを反対（⇧）に回して締め付けてください。



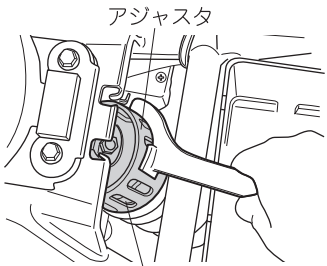
アドバイス

調整後ロックナットを確実に締め付けてください。

リヤショックアブソーバ

■ スプリングの強さ

1. フロントシートを取り外します。
   ☞51ページの「シート」参照
2. バッテリを取り外します。
   ☞126ページの「バッテリ」参照
3. サービス工具のクランプレンチでアジャスタを回します。



⚠警 告

リヤショックアブソーバには、高圧の窒素ガスが封入されています。不適切な取り扱いをすると、爆発や破裂が起こるおそれがあります。

- 火や熱から遠ざけてください。
- 取扱説明書をよくお読みください。

アドバイス

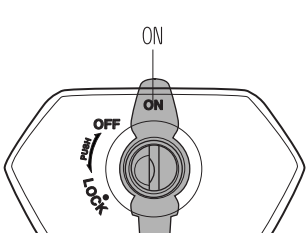
リヤショックアブソーバを廃棄するときは、スズキ販売店にご相談ください。

正しい運転操作

エンジンのかけかた

■ エンジンをかける前に

1. エンジンストップスイッチが⟳になっていることを確認します。
2. メインスイッチを**ON**にします。
3. ニュートラルインジケータの点灯を確認します。点灯しないときは、チェンジペダルを操作して**ニュートラル**にします。
4. エンジン警告灯の消灯を確認します。



⚠警告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

注記

エンジンを始動する前に、ギヤポジションインジケータとニュートラルインジケータの状態を確認してください。以下の状態でない場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。

- ギヤポジションインジケータが “0” の表示をしているとき、ニュートラルインジケータが点灯していること。
- ギヤポジションインジケータが（1、2、3、4、5、6)いずれかの表示をしているとき、ニュートラルインジケータが消灯していること。

注 記

エンジン始動後、油圧警告灯が点灯した状態でスロットルを開けたり走行したりしないでください。エンジンに悪影響を与えるおそれがあります。

アドバイス

メインスイッチをONにすると、約2秒間、FIの作動音がしますが異常ではありません。

＜サイドスタンドインタロック＞

- サイドスタンドの外し忘れ防止装置です。
- サイドスタンドが出ているときは、チェンジ位置**ニュートラル**でのみエンジンがかかります。また**ニュートラル**以外のとき、サイドスタンドを出すとエンジンが停止します。

サイドスタンド / チェンジ	出ている	外している
ニュートラル	◎	◎
ニュートラル以外	×	○

◎：始動可
○：始動･走行可
×：始動･走行不可

⚠警 告

走行中サイドスタンドを操作しないでください。エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

アドバイス

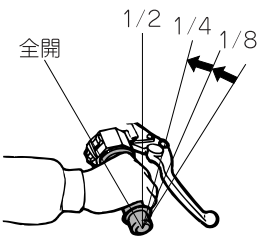
- サイドスタンドを完全に外していないとき、チェンジを操作するとエンジンが停止します。
- サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、注油してください。

■ エンジンのかけかた

スロットルグリップは回さずに、スタータスイッチを押します。

アドバイス

2〜3回スタータスイッチを押してもエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8〜1/4ほど回し、スタータスイッチを押します。エンジンがかかったら、スロットルグリップを戻してください。



アドバイス

- スタータスイッチを押して5秒以内にかからないときは、バッテリ電圧を回復させるため、メインスイッチを一旦OFFにして、10秒くらい休んでください。
- 不必要な空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジンや触媒装置に悪影響を与えます。

- 転倒した場合は、エンジンを止めるシステムがエンジンを止めます。また、同時にエンジン警告灯が点灯します。エンジンを再始動するには、車両を起こしたあと、メインスイッチを一旦OFFにして、再びONにしてください。エンジン警告灯が消灯すると、エンジンの再始動が可能になります。エンジン警告灯が点灯したままスタータスイッチを押し続けないでください。バッテリ上がりの原因となります。

〈暖機運転は適切に〉

次のような場合は、数十秒から数分程度の暖機運転を行ってから、走行を開始してください。

- 長期間お車を使用しなかったとき
- 寒冷地などで極低温（− 10 ℃以下を目安）にあるとき

上記以外の場合はエコ運転のため、エンジンを始動したらすみやかに走行を開始してください。

注 記

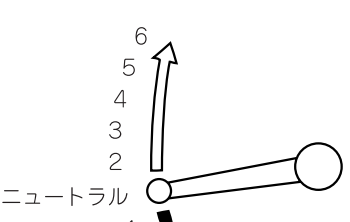
エンジン始動直後は暖まっていないので、空ぶかしや急発進、急加速をすると、エンジン故障の原因となります。

注 記

長時間のアイドリングはしないでください。オーバーヒートなどによる不具合の原因となります。

走りかた

1. サイドスタンドを外します。
2. クラッチレバーを握り、チェンジペダルを操作してギヤを1速に入れ、静かに発進します。
3. 車のスピードに応じてギヤを切り替えます。ギヤチェンジはリターン式です。ギヤチェンジは、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行ないます。チェンジ操作は、つま先で軽く行ない、ペダルにコツンと感じるまで確実に行なってください。



ギヤ	適応速度（km/h）
1速	0 ～ 40
2速	15 ～ 60
3速	30 ～ 80
4速	40 ～
5速	45 ～
6速	50 ～

⚠警 告

走行中サイドスタンドを操作しないでください。エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

注 記

- **無理なチェンジ操作をしたり、チェンジペダルに足を乗せたまま走行すると、チェンジ機構の損傷の原因となります。**
- **エンジンが異常な高温になると、クラッチの切れが悪くなることがあります。安全な場所で、エンジンを停止して冷やしてください。**
- **エンジン回転速度がレッドゾーンに入らないよう注意してください。もしレッドゾーンに入ってしまった場合は、速やかにスロットルをゆるめ、エンジン回転速度を下げてください。**

注 記

以下のような操作および走行をしないでください。エンジンの損傷の原因となります。

- クラッチレバーを確実に握らないギヤチェンジ操作
- 無理なチェンジ操作
- チェンジペダルに足を乗せたままの走行

アドバイス

- チェンジ操作はコツンと感じるまで確実に行ってください。
- むやみにエンジンの回転を上げないでください。エンジン寿命に悪影響を与えます。
- スピードは控えめにしましょう。
- 走行中に異常を感じたら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。

「感情的な走りはいけません
心のブレーキを忘れずに！」

＜シフトダウン＞

追越しをするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンすると加速力が得られます。シフトダウンは各速5,000r/min以下で行ってください。

⚠警 告

あまり高い回転数でシフトダウンを行うと、エンジン回転が上がりすぎてエンジン、ミッションが故障したり、走行安定性を失い、尻振りなどの原因となります。

＜ならし運転＞

ならし運転を行うと、お車の寿命を延ばします。

- 最初の1,000kmを走行するまでは、エンジン回転5,000r/min以下で走行してください。
- 新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。
  倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。
- 不必要な空ふかしや急加速、急減速、急ハンドル、急ブレーキは避けてください。

ブレーキの使いかた

ブレーキは前後同時に使い、エンジンブレーキを併用します。

<エンジンブレーキ>

スロットルグリップを戻すことによってエンジンブレーキがはたらきます。さらに強力なエンジンブレーキを必要とするときは、6速→5速…とシフトダウンします。

⚠警 告

- **急激なシフトダウンは走行安定性を失い、尻振りの原因となる事があります。速度に合わせたギヤを選んでください。**
- **フロントブレーキまたはリヤブレーキのみ使うと、車が横すべりして転倒するおそれがあります。**
- **濡れた路面や雪道、凍った路面は、乾いた路面より制動距離が長くなります。早めにブレーキをかけてください。**
- **長い下り坂などでは、エンジンブレーキを併用し、連続的なブレーキ操作は避けてください。ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。**
- **不必要な急ブレーキは避けましょう。急ブレーキは横すべりや転倒の原因となります。**

注 記

上り坂などで、アクセル操作やクラッチレバー操作でバランスを取るなどして車を停止させようとしないでください。クラッチが過熱し、故障の原因となります。

アドバイス

- 濡れた路面ではスリップしやすいので急激なブレーキは避け、スピードを落として余裕をもったブレーキ操作をしましょう。
- 洗車後や水たまり走行後は、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

メ モ

お車の点検

日常点検、定期点検

お車を快適に使用し、事故を未然に防ぐため、道路運送車両法で日常点検と定期点検を行うことが義務づけられています。必ず実施してください。

＜日常点検＞

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。
この車に適用される日常点検の項目は次のページをご覧ください。

＜定期点検＞

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。

▲警 告

日常点検や定期点検を怠ると、事故や故障の原因となることがあります。

アドバイス

- **お車を使用しないときも定期点検は実施してください。**
- **お車を長期間休ませた後に使い始めるときは入念に点検することが大切です。**

- 定期点検結果は、別冊「メンテナンスノート」に記録する必要があります。ご自身で点検できない項目については、スズキ販売店で点検を受けて記録してください。
- 点検時期や点検内容などについて、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“日常点検の方法”“定期点検の解説”をご覧ください。
- 初期（1か月）点検はお買いあげいただいたスズキ販売店が無料で実施します。ただし他店では有料となります。また油脂代、部品代およびその交換工賃は有料です。

▲警 告

点検は、安全に十分注意してください。

- **平坦な足場のしっかりした場所で、サイドスタンドを立ててください。**
- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。**
- **排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。閉めきったガレージの中や風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。**
- **点検、整備を行うときは火気厳禁です。**
- **走行して点検する場合は、周囲の交通事情に十分注意してください。**
- **異常が認められたときは、ご自身またはスズキ販売店で確実に整備してからお乗りください。**

日常点検項目

ブレーキ
- ブレーキレバー、ブレーキペダルの遊び
- きき具合
- ブレーキ液の量

タイヤ
- 空気圧
- 亀裂、損傷、異物、異常摩耗
- 溝の深さ

エンジン
- エンジンオイルの量
- 冷却水の量
- かかり具合、異音
- 低速、加速の状態

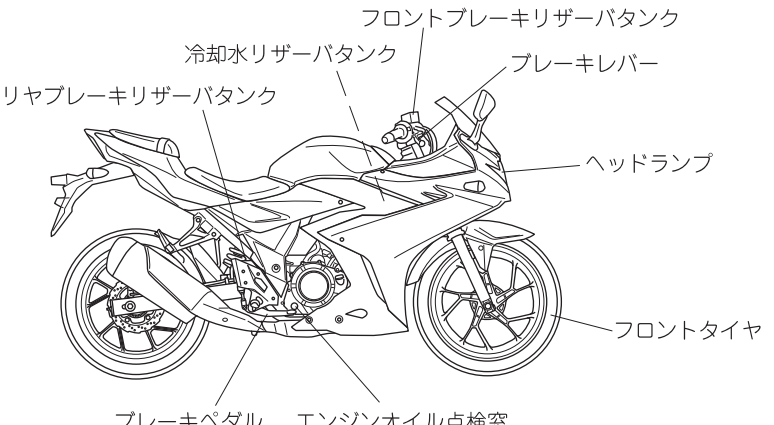
チェーン
※ゆるみ

灯火装置、方向指示器（ランプ類）

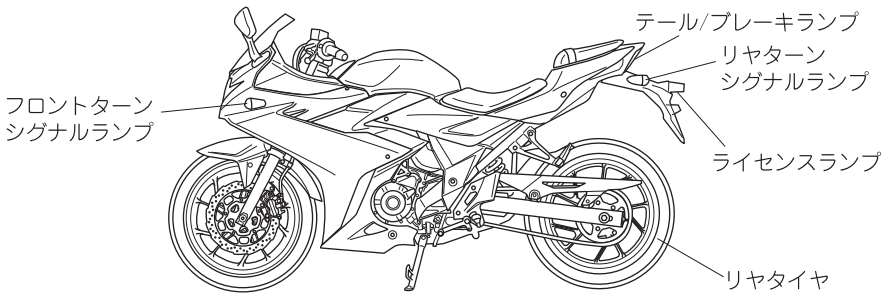
運行において異常が認められた箇所

※印の点検は、メーカー指定点検を示します。

＜日常点検・部品配置＞



－－－部は見えない部分を示します。


テール/ブレーキランプ
リヤターン
シグナルランプ
フロントターン
シグナルランプ
ライセンスランプ
リヤタイヤ

メ モ

簡単な整備

簡単な整備

ここでは、通常行われることが多い簡単な点検、整備の方法を説明しています。

⚠警 告

- **整備は、安全のためご自身の知識・技量の範囲で行ってください。難しいことはスズキ販売店にご相談ください。**
- **平坦な足場のしっかりした場所で、サイドスタンドを立ててください。**
- **エンジン回転中および停止後、しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。**
- **点検、整備を行うときは火気厳禁です。**

注 記

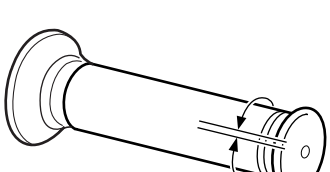
- **整備はエンジンを停止し、キーを抜いた状態で行ってください。**
- **適切な工具を使用しましょう。**
- **スイッチにグリスを塗ったり、注油をしないでください。故障の原因となります。**

アドバイス

油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

スロットルケーブル

■ スロットルケーブルの点検

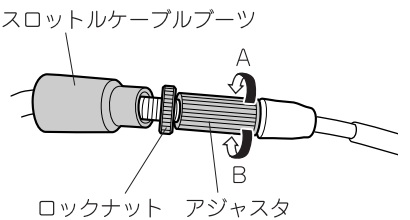


メインスイッチをOFFにした状態で、スロットルグリップを操作し、スムーズに操作できるか、ハンドルを左右いっぱいに切った状態でも操作が重くないか、傷や損傷が無いか点検します。また、スロットルグリップを操作し、スロットルケーブルの遊びの量が、2～4mmの範囲内にあるかを確認します。遊びの量が範囲から外れている場合は、調整してください。

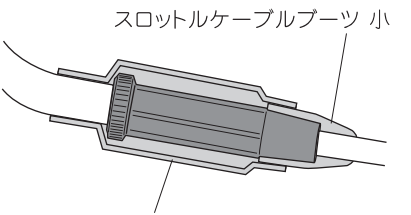
■ スロットルケーブルの遊びの調整

アジャスタにより遊びを調整します。

1. スロットルケーブルブーツをずらし、ロックナットをゆるめます。アジャスタをAのように回すと遊びが多く、Bのように回すと遊びが少なくなります。



2. 調整後は、スロットルケーブルブーツ小を奥までしっかりと差し込んだ状態で、スロットルケーブルブーツ大の先端をかぶせます。

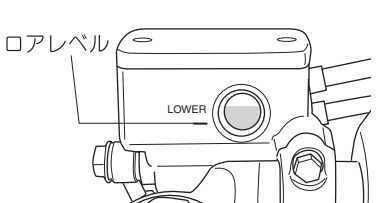


ブレーキ

■ ブレーキ液の量の点検

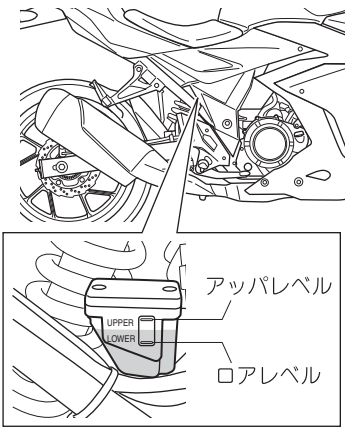
平坦地で車体を垂直にし、ハンドルを直進状態にして、リザーバタンクの液面がロアレベルより上にあるかを点検します。
液面がロアレベル以下の場合は、ブレーキパッドの摩耗点検を行ってください。

＜フロントブレーキ＞



運転席から見たところ

<リヤブレーキ>



車両右側から見たところ

▲警 告

ブレーキ液は、安全のため2年毎に交換してください。

指定ブレーキ液：
スズキブレーキフルードDOT4（JIS BF-4）

▲警 告

- ブレーキ液の減りが著しいときはブレーキ系統の液漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。
- ブレーキ液を取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

注 記

- **化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。**
- **リザーバタンク内にゴミや水などが混入しないよう十分注意してください。**
- **ブレーキ液の入れ過ぎに注意してください。あふれ出るおそれがあります。**

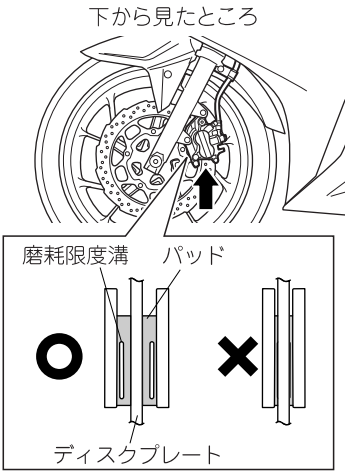
アドバイス

- **ブレーキ液は塗装面やプラスチックおよびゴム類を損傷させます。付着したら、すぐにふき取ってください。**
- **ブレーキ液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がっていきます。**

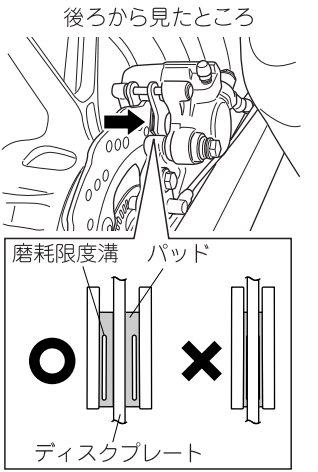
■ ブレーキパッドの摩耗の点検

ブレーキキャリパをのぞいて、パッドの摩耗を点検します。
摩耗限度溝がディスクプレートまで達したら（パッドの厚さが約1mmになったら）、パッドを交換してください。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



▲警 告

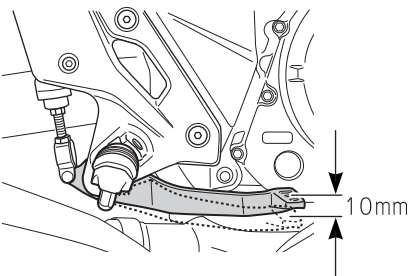
ブレーキパッド交換後、ブレーキレバーまたはブレーキペダルを、正規のタッチになるまで、数回ストロークしてください。

アドバイス

- **ブレーキパッドは左右同時に交換してください。**
- **新しいブレーキパッドは、きき具合が違います。慎重な運転を心がけてください。**
- **ブレーキパッドの交換は、スズキ販売店にご相談ください。**

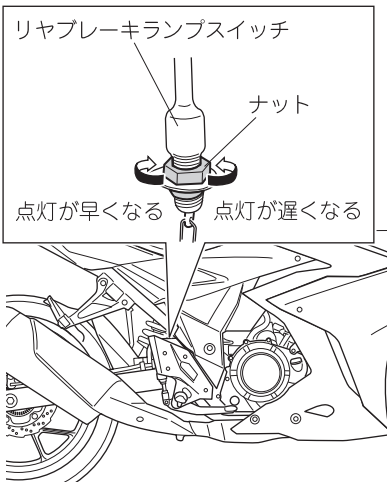
■ リヤブレーキランプスイッチの点検

リヤブレーキペダルを10mm程度踏み込んだときに、ブレーキランプが点灯を始めるか点検します。
点灯の開始が早い場合や遅い場合は、リヤブレーキランプスイッチを調整してください。



■ リヤブレーキランプスイッチの調整

リヤブレーキランプスイッチ本体が回らないように指で固定し、ナットを回して調整します。
ナットを左に回すとブレーキランプの点灯開始が早くなり、右に回すと遅くなります。



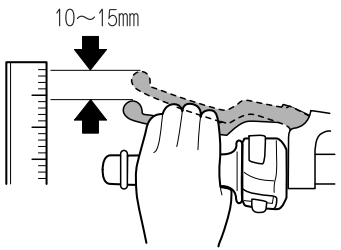
注 記

調整をするときにリヤブレーキランプスイッチ本体を回さないでください。配線の断線の原因となることがあります。

クラッチ

■ クラッチレバーの遊びの点検

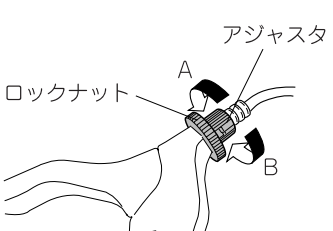
軽い抵抗を感じるまでクラッチレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。
規定の範囲から外れている場合は調整してください。



■ クラッチレバーの遊びの調整

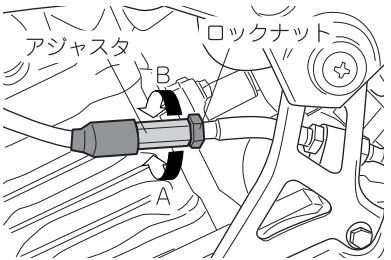
＜クラッチレバー部（微調整）＞

ゴムカバーをめくります。ロックナットをゆるめ、アジャスタを回し遊びを調整します。
アジャスタをAのように回すと遊びが多く、Bのように回すと遊びが少なくなります。



＜エンジン部（主調整）＞

アジャスタにより遊びを調整します。
ロックナットをゆるめアジャスタをAのように回すと遊びが多く、Bのように回すと遊びが少なくなります。



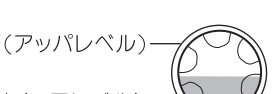
アドバイス

- **調整後、遊びが規定の範囲内にあるか確認してください。**
- **調整後、エンジンをかけチェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出しなどがないか確認してください。**

エンジンオイル

■ エンジンオイル量の点検

1. 平坦地でエンジンを3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
2. 車体を垂直にして、3分後オイルが点検窓のF(アッパレベル)とL(ロアレベル)の間にあるかを点検します。
   オイル量がF(アッパレベル)以上またはL(ロアレベル)以下の場合は、F(アッパレベル)とL(ロアレベル)の間になるよう調整してください。
   - オイル量がL(ロアレベル)以下の場合は、オイルを補給してください。
   - オイル量がF(アッパレベル)以上の場合は、オイルを抜くなどして調整してください。オイルを抜く方法については、スズキ販売店にご相談ください。

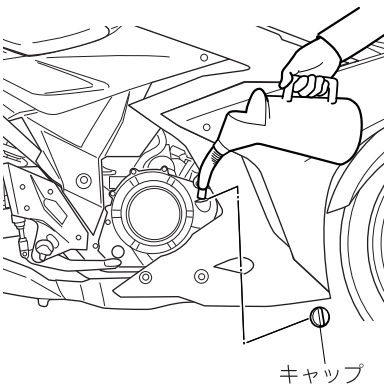


▲注 意

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

■ エンジンオイルの補給

1. 平坦地でエンジンを3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
2. 3分後、オイル注入口キャップを外します。
3. 車体を垂直にして、F(アッパレベル)とL(ロアレベル)の間に油面がくるように補給します。
4. キャップを確実に取り付けます。



推奨オイル：スズキ純正オイル

規格 / オイル	SAE	API
エクスター R9000 MA2	10W-40	
エクスター R7000 MA2	10W-40	
エクスター R5000 MA2	10W-40	
エクスターオイル スーパーデラックス	10W-40	SE

推奨オイルが入手できない場合は、次の規格を満足するエンジンオイルを使用してください。

SAE	API	JASO
10W-40	SG, SH, SJ, SL, SM, SN	MA

エンジンオイル交換時期：
初回1か月または1,000km
以降6,000kmまたは1年ごと
オイルフィルタ交換時期：
初回1か月または1,000km
以降18,000kmごと

▲警 告

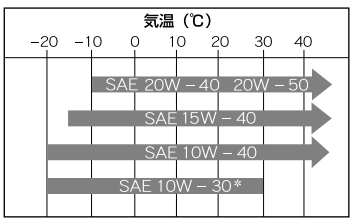
エンジンオイルを取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

注 記

- 摩擦低減剤を必要以上に多く含むエンジンオイルは使用しないでください。また摩擦を低減する添加物は加えないでください。クラッチは、エンジンオイルに浸されています。摩擦低減剤を含むエンジンオイルはクラッチのすべりなどの原因となる場合があります。
- 銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因となることがあります。
- 作業前に オイルジョッキの内部等にほこりや泥、異物等が付着していないことを確認し、オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。

アドバイス

- SAE10W-40 のオイルが入手できない場合は、次の表を参考に使用環境に合うオイルを選んでください。



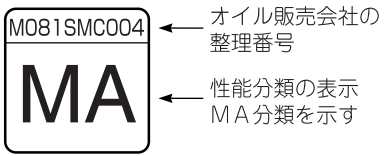
＊ APIがSG、SH、SJ、SLのもの

- オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。
- オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。

アドバイス

JASO規格について

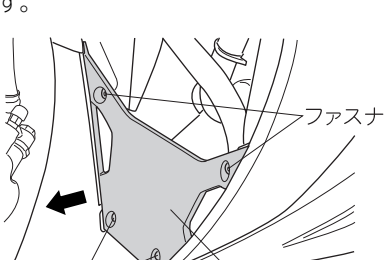
- **JASO T903は、4サイクル二輪車のエンジンオイルを選ぶ際の指針となる規格です。**
- **二輪車は四輪車と異なりエンジンオイルがクラッチやトランスミッションも潤滑しています。JASO T903はこれらクラッチやトランスミッションが要求するオイル性能について規定しています。**
- **MAとMBの分類があり、本規格に適合するエンジンオイルの容器には、次の表示があります。**



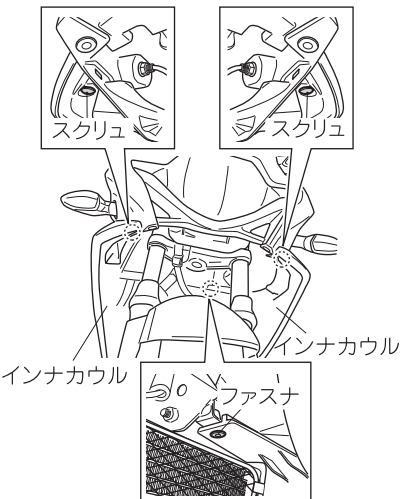
カウル

＜カウルの取り外し＞

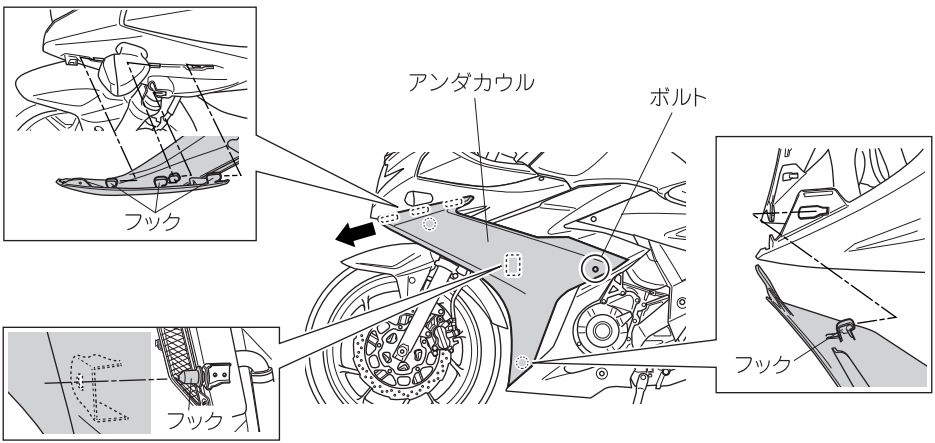
1. 平坦地でサイドスタンドを立てます。
2. フロントシートを取り外します。
   ☞51ページの「シート」参照
3. スクリュおよびファスナを外し、センタカウルを車体前方(矢印方向)へ取り外します。



4. インナカウルのスクリュ (左右) および
ファスナ(左)を外します。

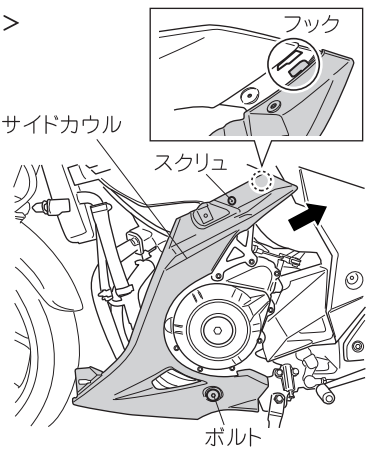


5. アンダカウル(左右)のボルト(左右)を外します。フックを外し(下図参照)、アンダカウル(左右)を車体前方(矢印方向)へ取り外します。

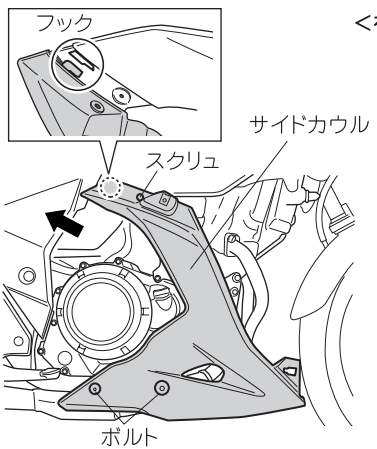


6. サイドカウル(左右)のスクリュ (左右)およびボルト(左右)を外します。フックを外し(下図参照)、サイドカウル(左右)を車体後方(矢印方向)へ取り外します。

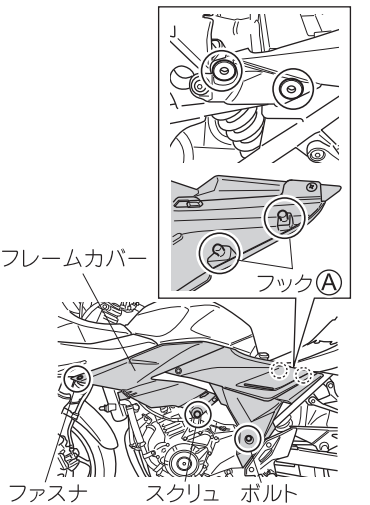
<左側>

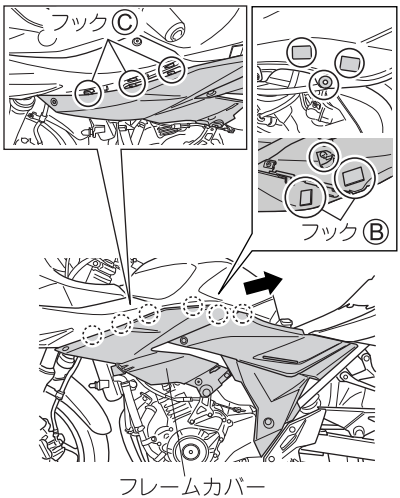


<右側>



7. フレームカバー（左右）のファスナ（左右）、スクリュ（左右）およびボルト（左右）を外します。フックをA、B、Cの順に外し（下図参照）、フレームカバー（左右）を支えながら車体後方（矢印方向）へ取り外します。





＜カウルの取り付け＞

取り外した逆の手順でカウルを取り付けてください。

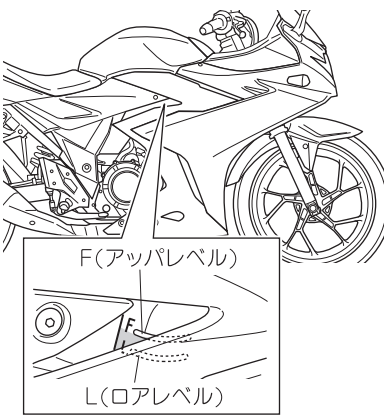
冷却水

■ 冷却水の量の点検

1. 平坦地でサイドスタンドを立てます。
2. 車体を垂直にして、冷却水がリザーバタンクのF（アッパレベル）とL（ロアレベル）の間にあるかを点検します。冷却水がL（ロアレベル）に近い場合は、F（アッパレベル）まで補給してください。

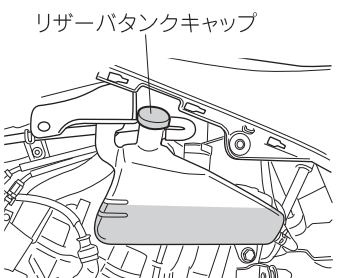
アドバイス

冷却水の量の点検は、エンジンが冷えたときに行ないます。



■ 冷却水の補給

1. 平坦地でサイドスタンドを立てます。
2. 右側サイドカウリングを取り外します。
   ☞105ページの「カウル」参照
3. リザーバタンクキャップを外します。
4. F（アッパレベル）まで冷却水を注入します。
   指定液：スズキスーパーロングライフクーラントまたはスズキクーラント



⚠警 告

冷却水は、人体に有害です。冷却水を取り扱うときは、十分注意してください。

- 冷却水を補給するときは、換気のよい場所で行なってください。
- 飲んだ場合は、無理に吐かずに、すみやかに医師の診察を受けてください。
- 目に入った場合は、きれいな流水で十分に洗ったあと、医師の診察を受けてください。
- 皮膚や衣服に付いた場合は、水と石鹸を使って洗い落としてください。

⚠警 告

- クーラントを取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。
- 冷却水の補給はリザーバタンクキャップから行い、ラジエータキャップは外さないでください。エンジンが熱いときラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、やけどを負うおそれがあります。

アドバイス

- 冷却水の減りが著しいときはラジエータ本体、ホースなどからの漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。
- リザーバタンクが空の場合は、ラジエータ内の冷却水も不足している可能性があります。
- 補給する水は水道水を使用し、井戸水や天然水は使用しないでください。
- 冷却水の交換はスズキ販売店にご相談ください。
- 冷却水交換時はスズキクーラントと水道水を１：１で混合したものを使用してください。
- スズキスーパーロングライフクーラントは水で希釈する必要はありません。

エアクリーナ

■ エアクリーナエレメントの点検・清掃・交換

1年毎に点検してください。ほこりが多い場所を走行する機会が多い場合は、6か月毎に点検してください。

アドバイス

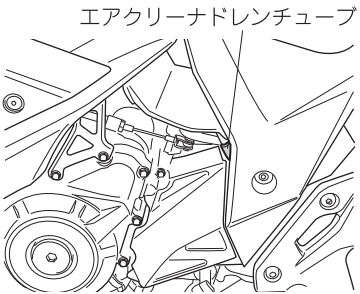
エアクリーナエレメントの点検・清掃・交換は、スズキ販売店にご相談ください。

アドバイス

洗車時、エアクリーナボックス内に水が入らないようにしてください。

■ エアクリーナドレンチューブの清掃

1年毎に、エアクリーナドレンチューブに、水やオイルがたまっていないか点検してください。汚れや水がたまっている場合は、エアクリーナドレンチューブを清掃します。



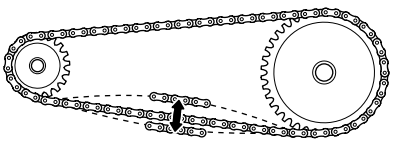
⚠注 意

エンジン停止後しばらくの間は、エンジンが熱くなっています。このときエンジンに触れるとやけどを負うおそれがあります。

ドライブチェーン

■ ゆるみの点検

前後スプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンのゆるみが規定の範囲内にあるかを点検します。
規定の範囲を越えている場合は、調整してください。



また、車をゆっくり動かし、チェーンがなめらかに回転するかを点検します。
回転がなめらかでない場合は、清掃し、注油してください。

▲警 告

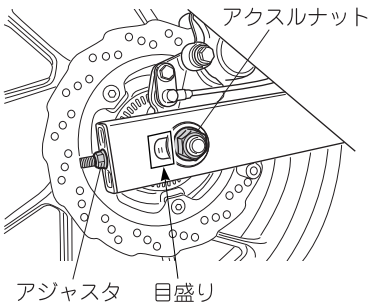
ドライブチェーンの点検、調整、清掃、注油は、必ずエンジンを止めてから行なってください。

アドバイス

ドライブチェーンの調整などは、スズキ販売店にご相談ください。

■ ゆるみの調整

1. アクスルナットをゆるめます。
2. アジャスタを左右少しずつ回します。
3. トルクレンチを使用して、アクスルナットを規定トルクで締め付けます。
   規定トルク：65N·m



アドバイス

- **アクスルナットの締め付けは、トルクレンチを使用してください。トルクレンチが無い場合は、スズキ販売店にご相談ください。**
- **左右同じ目盛りに合わせてください。**

■ 清掃、注油

1. ドライブチェーンにほこりや泥などが付着しているときは汚れを取り除きます。シールリングを傷付けないように注意してください。
2. 洗浄はシールチェーン専用クリーナまたは、水や中性洗剤などで行います。
   推奨クリーナ：
   スズキアルミホイール&チェーンクリーナ

注 記

不適切な清掃をすると、ドライブチェーンのシールリングに傷がついたりドライブチェーンが壊れたりすることがあります。

- **シンナー、灯油、ガソリン等の揮発性溶剤を使用しないでください。**
- **スチーム洗車機を使用しないでください。**
- **ワイヤーブラシを使用しないでください。**

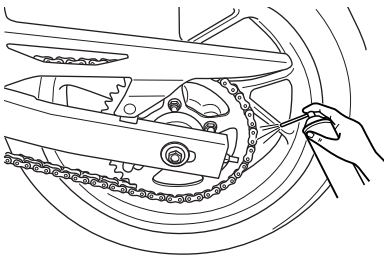
3. 柔らかいブラシを使用します。ブラシは柔らかくてもシールを痛める場合があるため、シールリングを傷付けないよう注意してください。
4. 水や洗浄剤を綺麗にふき取ります。
5. 注油は２輪シールチェーン専用オイルもしくは粘度の高いオイル（#80～90）を使用します。

   推奨オイル：スズキチェーンオイルR

注 記

ドライブチェーンオイルの中にシールリングに損傷を与える溶剤や添加物が含まれている場合があります。

シールリング付きドライブチェーン専用オイルを使用してください。



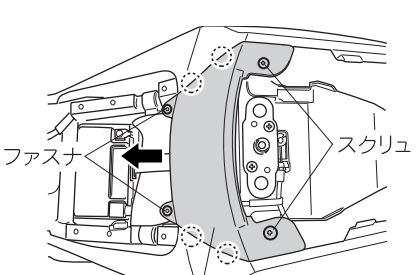
6. オイルがチェーン各部によく行きわたるように、チェーンの手前と奥の両側に注油します。
7. 全周に注油した後、外側の余分なチェーンオイルを乾いたウェスでふき取ります。

ヒューズ

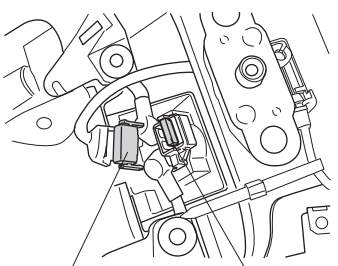
■ ヒューズの点検

<メインヒューズ>

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. フロント、リヤシートを取り外します。
   ☞51ページの「シート」参照
3. スクリュを外します。ファスナを外し、センタフレームカバーを取り外します。

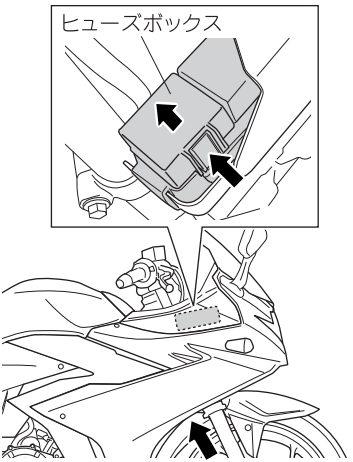


4. メインヒューズカプラを外し、メインヒューズを引き出して点検します。
5. 切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

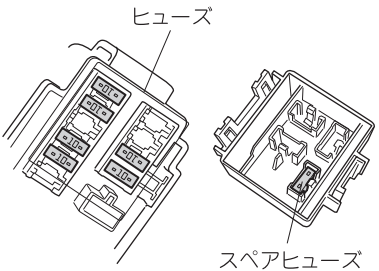


<ヒューズ>

1. メインスイッチをOFFにします。
2. 右側カウリングの内側にヒューズボックスが取り付けられています。
3. 右側カウリングの下側よりヒューズボックスを引き出して点検します。



4. 切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。



▲警 告

指定容量を超えるヒューズは、配線の過熱、焼損の原因となるので使用しないでください。針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

注 記

- 電装品類（ランプ、計器など）を取り付けるときは、スズキ純正用品をご使用ください。それ以外のものを使用するとヒューズが切れたり、バッテリあがりを起こすことがあります。
- 洗車時、ヒューズのまわりに水を強くふきつけることは避けてください。

アドバイス

ヒューズが切れたときは原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

バッテリ

■ バッテリの点検

この車は密閉式のメンテナンスフリーバッテリを使用しています。バッテリ液の点検、補給は必要ありません。
ターミナル部に汚れや腐食がある場合は、取り外して清掃してください。

⚠警 告

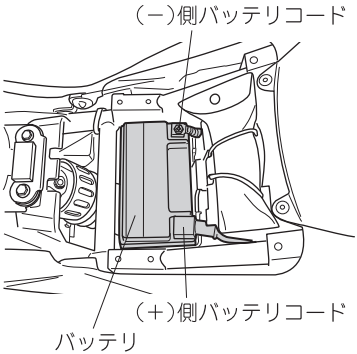
- **バッテリを取り扱う前に、バッテリに貼付されている注意文をよく読んでください。**
- **バッテリには、希硫酸が含まれています。希硫酸が身体に付着すると重いやけどを負うおそれがあります。**
- **バッテリは引火性ガスを発生します。火気を近づけないでください。**
- **バッテリは、子供の手の届くところに置かないでください。**
- **乾いた布でバッテリをふかないでください。静電気が発生して引火するおそれがあります。**

＜バッテリ液が付着した場合は・・・＞

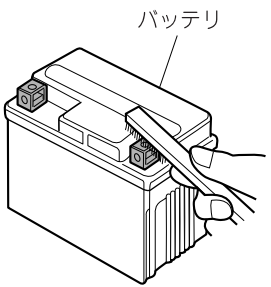
- 目に入った場合は、すぐに多量の水で15分以上洗い、医師の診察を受けてください。
- 皮膚や衣服に付いた場合は、衣服を脱ぎ多量の水で洗い流してください。
- 万一飲み込んだ場合は、すぐに多量の水を飲んで医師の診察を受けてください。

■ バッテリターミナル部の清掃

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. フロントシートを取り外します。
   ☞51ページの「シート」参照
3. (－)側バッテリコード、(＋)側バッテリコードの順に外します。
4. バッテリを取り外します。



5. ターミナル部に白い粉が付いているときは、ぬるま湯を注いでふきます。腐食が著しいときは、ワイヤブラシかサンドペーパで磨いてください。
6. 清掃後、ターミナル部にグリスを薄く塗り、バッテリを取り付けます。



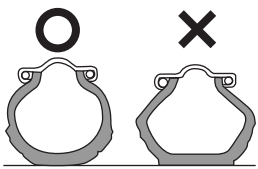
アドバイス

- バッテリコードを外すときは、必ずメインスイッチをOFFにし、(ー)側を先に外してください。取り付けるときは(+)側を先に取り付けます。
- ターミナル部にゆるみが生じないように締め付け、(+)側ターミナルカバーを確実に取り付けてください。
- 密閉栓は取り外さないでください。
- バッテリを交換するときは、同一型式のメンテナンスフリーバッテリと交換してください。
- 長期間使用しない場合は、3か月ごとに補充電してください。詳細はP.142のアドバイスをご覧ください。

タイヤ

■ 空気圧の点検

タイヤが冷えているときにタイヤゲージを使用して、規定の空気圧であるかを点検します。規定値を外れている場合は、適正な空気圧に調整してください。



タイヤ空気圧

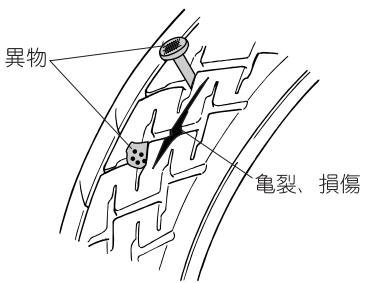
1人乗車時	前	250kPa
	後	250kPa
2人乗車時	前	250kPa
	後	250kPa

⚠警 告

不適正な空気圧での使用や、すり減ったタイヤの使用は、転倒事故などの原因となります。適正な空気圧を守り、すり減ったなら交換してください。

■ 亀裂、損傷、異物の点検

タイヤの接地面および側面の全周に、亀裂や損傷がないかを確認します。
また、釘や石などの異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを確認します。

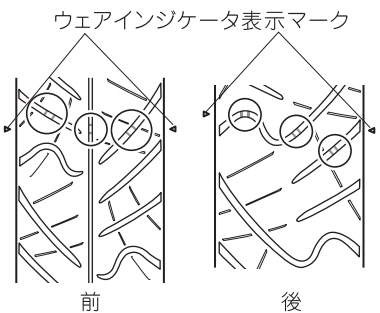


■ 異常磨耗の点検

タイヤの接地面が、異常に磨耗していないかを確認します。異常に磨耗している場合は、スズキ販売店にご相談ください。

■ 溝の深さの点検

ウエアインジケータがあらわれていないかを点検します。
ウエアインジケータがあらわれたときは、タイヤを交換してください。



アドバイス

コーナリングや操縦安定性などの安全走行のために、早めのタイヤ交換をおすすめします。溝の深さは、前1.6mm、後2.0mm以上が望ましいです。

■ タイヤの交換

タイヤを交換する場合は、必ず指定タイヤを使用してください。

指定タイヤ

前	**サイズ**	110/80-17M/C 57H
	種類	IRC RX-01F D
後	**サイズ**	140/70-17M/C 66H
	種類	IRC RX-01R

⚠警 告

指定外のタイヤの使用は、安全走行に悪影響を与える場合があります。必ず指定タイヤを取り付けてください。

アドバイス

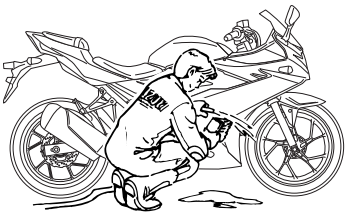
新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。

お車の手入れ

洗車

お車を長持ちさせるため、常に清掃をしましょう。泥道やホコリの多いところを走行した後は、すみずみまで洗車しましょう。異常などが早く発見でき、故障予防にもなります。海水に含まれる塩分や融雪剤は金属をサビやすくします。海岸付近や融雪剤を使用した道路を走行した後は、必ず洗車してください。

1. 冷水をかけながら、スポンジまたは柔らかい布で汚れを落とします。
2. ひどい汚れは、中性洗剤を使用して水で洗い流します。
3. 乾いた柔らかい布で、水分をふき取ります。車体を乾燥させた後、ブレーキレバーやスタンドの取り付け部へグリースなどを注油し、サビ予防のためにワックスがけを行ってください。



注 記

- 洗車はエンジンが冷えているときに行ってください。
- 高圧洗車機やスチーム洗車機は使用しないでください。可動部や電装部品の作動不良や故障の原因となる事があります。
- 洗車時、マフラ、エアクリーナや電装品に水が入らないよう注意してください。水が入ると始動不良やサビ発生の原因となります。
- ラジエータに高圧の水をかけないでください。冷却フィンが損傷するおそれがあります。
- 洗車後はブレーキのきき具合が悪くなる場合があります。この場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

アドバイス

下記の場所には水を噴射したり、流したりしないでください。

- メインスイッチ
- スパークプラグ
- フューエルタンクキャップ
- フューエルインジェクションシステム
- ブレーキマスターシリンダ
- スロットルケーブルのブーツ

アドバイス

- 洗車後や雨天走行後にヘッドランプのレンズが曇ることがあります。この場合は、ヘッドランプを点灯することで曇りは徐々に消えます。バッテリあがりを防ぐために、エンジンを掛けながらヘッドランプを点灯させてください。
- 海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分をふき取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。

プラスチック製部品

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイ、ウインドスクリーン、フェアリングなどのプラスチック製部品は傷つきやすいので、清掃するときは中性洗剤または石けん水で洗った後、水洗いし、柔らかい布でふいてください。

⚠警 告

ドライブチェーンの点検、調整、清掃、注油は、必ずエンジンを止めてから行なってください。

注 記

ヘッドランプレンズ、スピードメータディスプレイ、ウインドスクリーンなどのプラスチック製部品に、以下のものが付着すると傷や部品の損傷の原因になります。

- **コンパウンド入りワックス**
- **油膜とり剤や撥水剤などのケミカル用品**
- **酸性・アルカリ性の洗剤**
- **ブレーキ液、ガソリン、有機溶剤など**

つや消し塗装

つや消し塗装の車両は、次の注意事項をお守りください。

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 固形ワックスは、ふき取りが困難になることがあります。
- 使用中の摩擦や表面を擦り過ぎたり強く磨くと、つや消し表面が変化することがあります。

アルミホイール

アルミホイールは、塩分などの汚れを嫌います。アルミホイールの美しさを保つため、定期的に（週に一度くらい）清掃しましょう。

1. 中性洗剤をスポンジに含ませて、汚れを落とします。
2. 十分に水洗いをして、乾いた布で水分をふき取ります。

アドバイス

- **アルミホイールは、傷がつきやすいため、みがき粉、硬いブラシや金属タワシなどの硬いものでこすったり、当てたりしないでください。**
- **海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分をふき取ってください。温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。**

エキゾーストパイプ

ステンレス鋼のエキゾーストパイプは、油脂などの汚れにより焼けむらが生じることがあります。

- 汚れは、ステンレス用の台所洗剤を使って、布かスポンジで洗浄ののち、十分に水洗いし乾いた布で水分をふき取ります。
- 焼けむらが生じた場合は、細目のコンパウンドで磨いてから、汚れを落とします。

▲注 意

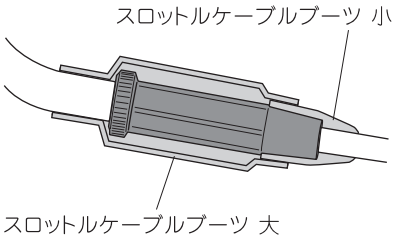
エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

アドバイス

排気熱によってエキゾーストパイプは変色しますが、機能上の問題はありません。

スロットルケーブルブーツ

スロットルケーブルには、ブーツが取り付けられています。ブーツが確実に取り付けられていることを確認してください。洗車時には、ブーツに直接、水をかけないようにしてください。ブーツが汚れている場合は、水で濡らした布でふき取ってください。

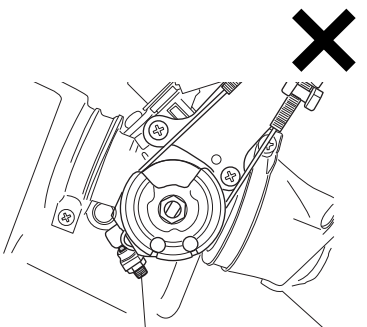


アドバイス

ブーツが上記のように取り付けられていない場合は、P.90を参考に取り付け直してください。

スロットルストップスクリュ

スロットルストップスクリュは工場出荷時に、適正なアイドリング回転速度になるように設定されています。



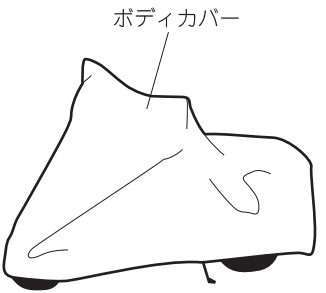
スロットルストップスクリュ

注 記

- **スロットルストップスクリュを調整しないでください。適正なアイドリング回転速度が保てなくなります。**
- **アイドリング回転速度の調整は、スズキ販売店にご相談ください。**

保管のしかた

できるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外の場合は、ボディカバーをかけるようにしてください。



アドバイス

ボディカバーは、エンジンやマフラが冷えてからかけてください。

アドバイス

長期間乗らない場合は、次の事項をお守りください。

- **保管前に各部のワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリは、自己放電と電気漏れを少なくするため、車から外し、完全補充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。車に積んだまま保存する場合は(－)ターミナルを外してください。**

※補充電については、スズキ販売店にご相談ください。

環境を保護するために

将来、車両を廃棄する場合や使用済みバッテリ、エンジンオイルなどを廃棄する場合は、地球環境を守るため、むやみに捨てないでください。お車を廃棄する場合はお近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。

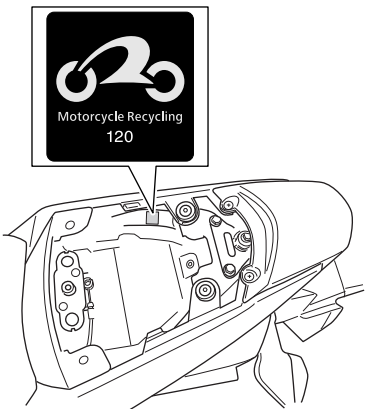
◆ 廃棄二輪取扱店とは

廃棄二輪取扱店とは（社）全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪取扱店として登録されている、廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。
廃棄二輪取扱店には「廃棄二輪取扱店の証」が表示されています。

廃棄二輪取扱店の証

◆ 二輪車リサイクルマークとリサイクル料金

この車には二輪車リサイクルマークが貼り付けられています。二輪車リサイクルマークが貼り付けられている二輪車は、適正な処理を行い再資源化するための、リサイクル費用がメーカー希望小売価格および車両本体価格に含まれています。お車を廃棄する場合には、リサイクル料金はいただきません。ただしお車の運搬、収集費用はお客様のご負担となります。運搬、収集費用につきましては、お近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。



◆ 二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する場合には、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行および部品販売の取扱いはありません。
リサイクルマーク対象車両かどうか不明の場合は、下記のホームページおよびコールセンターでご確認ください。

◆ 廃棄二輪車に関するお問合せについて

廃棄二輪車に関するお問合せは、お近くの廃棄二輪取扱店または下記までお問合せください。
（財）自動車リサイクル促進センター
ホームページ：http://www.jarc.or.jp/

サービスデータ

主要諸元

項目		諸元
長さ		2,085mm
幅		740mm
高さ		1,110mm
軸距		1,430mm
車両重量		178kg
乗車定員		2人
タイヤサイズ	前	110/80-17M/C 57H
	後	140/70-17M/C 66H
最小回転半径		2.9m
エンジン形式		4サイクル・2気筒
冷却方式		水冷
燃料供給方式		フューエル インジェクション

項目	諸元
総排気量	248cm^3
内径×行程	53.5×55.2mm
アイドリング回転速度	1,400r/min
最高出力	18kW/8,000r/min
最大トルク	22N·m/6,500r/min

項　　目		諸　　元
クラッチ形式		湿式･多板･コイルスプリング式
トランスミッション		常時噛合式6段リターン
減速比	1次	3.238
	2次	3.285
変速比	1速	2.416
	2速	1.529
	3速	1.181
	4速	1.043
	5速	0.909
	6速	0.807
ブレーキ形式	前	油圧式シングルディスク
	後	油圧式シングルディスク

項　　目	諸　　元
フューエルタンク容量	15L
点火方式	フル・トランジスタ式バッテリ点火

サービスデータ

項　　目	調　　整　　値
ドライブチェーンのゆるみ	20～30mm

タイヤ空気圧	1人乗車時	前	250kPa
		後	250kPa
	2人乗車時	前	250kPa
		後	250kPa

エンジンオイル量	オイル交換時	2.1L
	オイルフィルタ交換時	2.2L
	全　容　量	2.4L

スパークプラグ	種類	NGK	CPR7EA-9
		DENSO	U22EPR9
	ギャップ		0.8～0.9mm

項　　目		調　　整　　値
バッテリ	種　　類	FTX9-BS メンテナンスフリー
	容　　量	12V—8Ah

ランプ	ヘッドランプ H/L		12V 60/55W (H4)
	ポジションランプ		LED
	ストップ／テール		LED
	ターンシグナル	前	12V 10W
		後	12V 10W
	ライセンスランプ		12V 5W

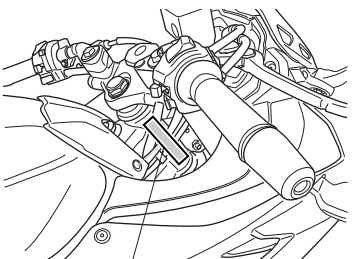
ヒューズ	10A, 30A

車台番号

アフターサービスなどを的確に行うため、お車の車台番号を記入しておいてください。

機　　種	GSX250R
車台番号	

車台番号はフレームヘッドパイプ右側に打刻してあります。



車台番号打刻位置

メ モ

メ モ

メ モ

お車やサービスなどについてのご相談、ご意見がございましたら、お買いあげのスズキ販売店またはメンテナンスノート巻末に記載されている、お近くのスズキ二輪代理店にお申しつけください。

お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするために次の事項を必ずご確認のうえ、ご相談ください。

① 機種、型式、車台番号
② 購入年月日　④ 相談事項
③ 走行距離　⑤ ご住所、お名前、電話番号

お買いあげの販売店

［TEL］

スズキ株式会社の窓口は…
〒 432-8611　浜松市南区高塚町 300

スズキ株式会社

お客様相談室
◆ フリーダイヤル　0120-402253
受付時間　9:00 ～ 12:00　13:00 ～ 17:00

弊社お客様相談室におけるお客様の個人情報の取扱いにつきましては、スズキ株式会社のホームページに掲載していますのでご覧ください。
(http://www.suzuki.co.jp)

こんなときは、スズキ販売店に持ち込む前に次のことを調べてみてください。

エンジンがかからない
- かけかたは取扱説明書どおりですか
- ガソリンは入っていますか

ブレーキがきかない
- ディスクブレーキはブレーキパッドの磨耗、ドラムブレーキはブレーキレバーの遊びを点検してください

ランプ類が点灯しない
- ヒューズが切れていないかを点検してください

再生紙、植物油インクを使用しています。